

取扱説明書及び部品表

Takakita

ローリカッパ

RC1831 ・ RC1831D



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **九カキ**


は じ め に




このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**ロールカッター**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。


- お読みになったあとも必ず製品に近接して保管してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として、製品自体の損傷防止に関する留意事項を記載しております。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行うことがあります。お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点やお気付きの点がございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

-  **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
-  **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
-  **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	20
各部の名称とはたらき	21
トラクタへの装着	22
1. ロアリンクへの装着のしかた	22
2. ドローバへの装着のしかた	22
3. 油圧操作レバー（運転席側）の調整	23
4. ユニバーサルジョイントの取付け	23
5. 油圧ホースの接続	23
運転に必要な装置の取扱い	24
1. 切断長切換えのしかた	24
2. 切断物排出方向の切換え	24
3. 機体高さ調整のしかた	25
4. スタンドの上下調整	25
5. 油圧操作について	25
作業方法	28
1. 作業手順と要点	28
2. 移動するとき	29
3. 前進⇔後進に移るとき	29
4. ベールの積込み方法	29
5. 切断長の設定	30
6. ベールの切断方法	30
7. ベールの保管方法	32
8. 傾斜地での作業	32
9. トラクタからの切り離し	32
作業前の点検について	33
1. 点検一覧表	33
簡単な手入れと処置	34
1. ナイフ（切断刃）の調整	34
2. 固定刃の調整	35
3. チェン・ベルトの張り調整	35
4. シェアボルトの交換	37
5. ミッションの点検・給油	37
6. タイヤ交換	38
7. 長期格納時の手入れ	38
8. 各部への給油	39
不調診断	40
付表	41
1. 主要諸元	41
2. 主な消耗部品	41
3. 給油	41
4. 主なオプション部品	41

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある ⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

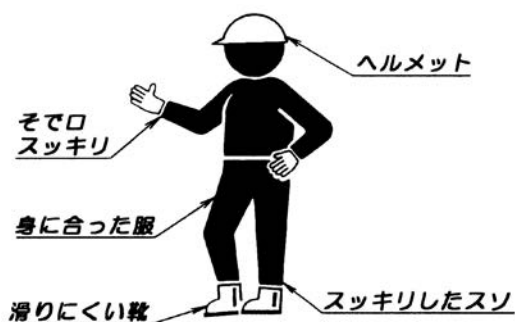
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人。



(2) 使用する人の服装

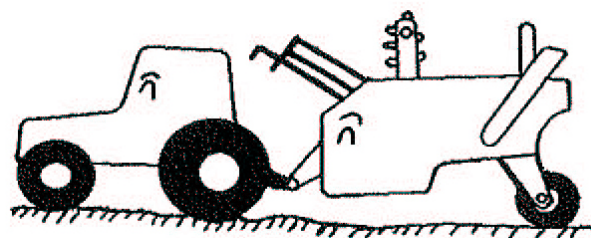
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

- 適応トラクタ馬力：29.4～58.5kw
(40～80ps)
- ロワーリンク規格：カテゴリ I・II
- PTO 回転速度：540min⁻¹(rpm)
- 油圧取り出し：複動1系統

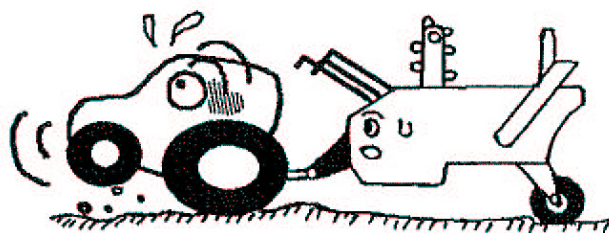


(4) 装着時の前後バランス確認

軽量のトラクタに装着して作業を行う場合には、ヒッチ荷重を確認してください。

トラクタ質量にヒッチ荷重を加えた値の20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。

もし、不足するときはフロントウェイトを取付けて、20%以上確保するか、できなければ装着しないでください。



⚠ 安全に作業するために

(5) バランスウェイトの取付け

トラクタのバランスウェイトは指定された部分に指定されたウェイト以外は取付けないでください。

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。また、改造はしないでください。



(7) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

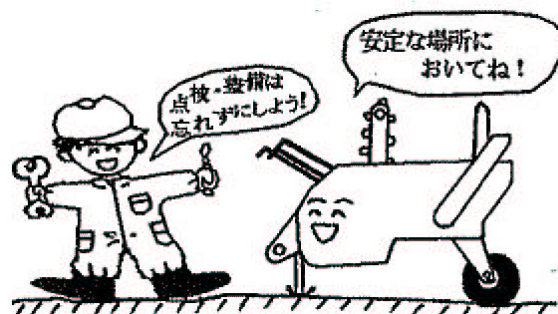


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

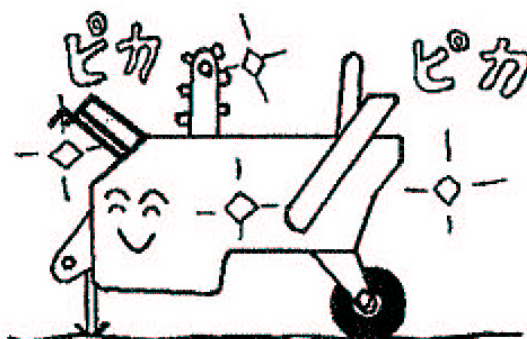
(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除するときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でトラクタのエンジンを停止させ、本機に車止めをしてから行ってください。ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(4) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも、機械を常にきれいに維持してください。



(5) 排気ガスには十分注意

屋内などでトラクタのエンジンを始動するときは、エンジンの排気ガスによる中毒のおそれがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で使用する場合には、十分換気を行ってください。



⚠️ 安全に作業するために

(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(7) 注油・給油をするときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



(8) 高圧油に注意してください

- ① 圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ② 高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③ 圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締付けてください。
- ④ 非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことはやめてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。

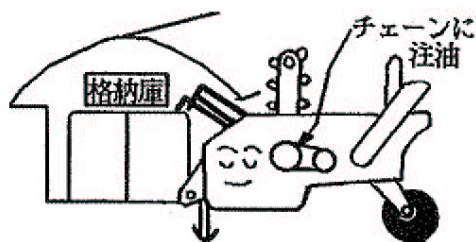


(9) 鋭利なナイフに注意する

ナイフに触れるときは十分注意して必ず保護手袋を着用してください。

(10) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部には十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

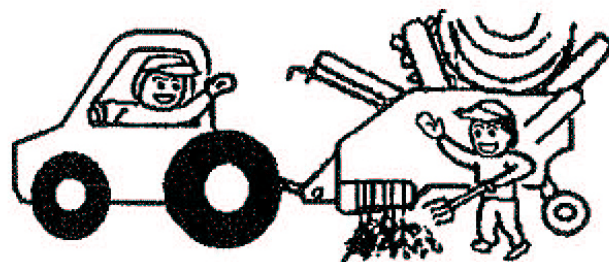
(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



(2) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



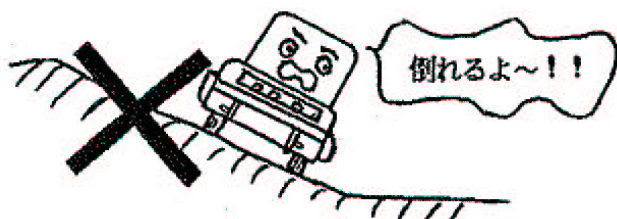
⚠ 安全に作業するために

(3) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

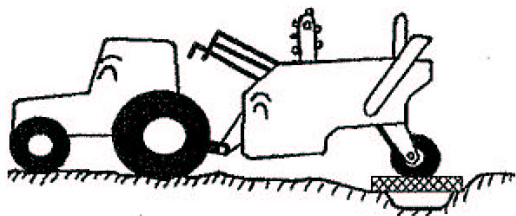
(4) 傾斜地での作業は禁止

傾斜地での作業はしないでください。転倒する危険があります。



(5) 溝やあぜを横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



(6) 作業途中で運転席より離れるときは機械を平坦な場所に降ろし、PTOを切りエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。エンジンキーは必ず取外して保管してください。



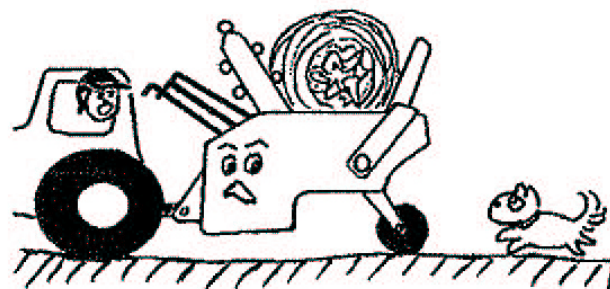
(7) 回転中のカッターヘッドやコンベアにはふれない

回転しているカッターのナイフ・コンベアバー・コンベアベルトに巻き込まれると、重傷を負うことがあります。手・足・衣服等、絶対に触れないようにしてください。



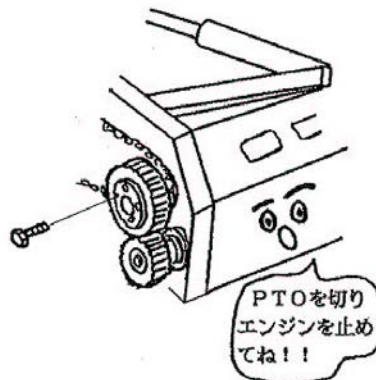
(8) 後進して作業するときは

後方に障害物のないことを十分確認し、本機と障害物の間に人や動物を挟まないようにしてください。



(9) シェアボルトの交換や巻付き草などを取り除くときは

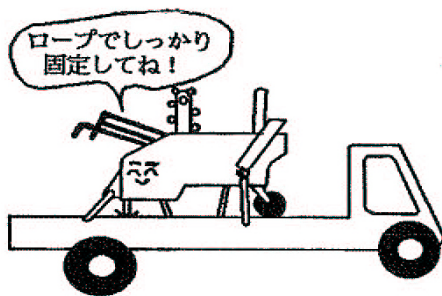
PTOのクラッチを切り、エンジンを必ず止めて行ってください。



⚠ 安全に作業するために

4. 道路走行・輸送するときは

- (1) 公道走行時は保安基準を満たしてください。
保安基準を満たさない限り公道走行できません。
- (2) スタンドを移動位置にする
移動するときは、必ずスタンドを上げて定行してください。
- (3) トラックなどへの積み込み・積降ろしは
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけてください。積込んだ機械は必ず車止めをし、ロープで固定してください。



⚠ 安全に作業するために

5. 公道走行するときは

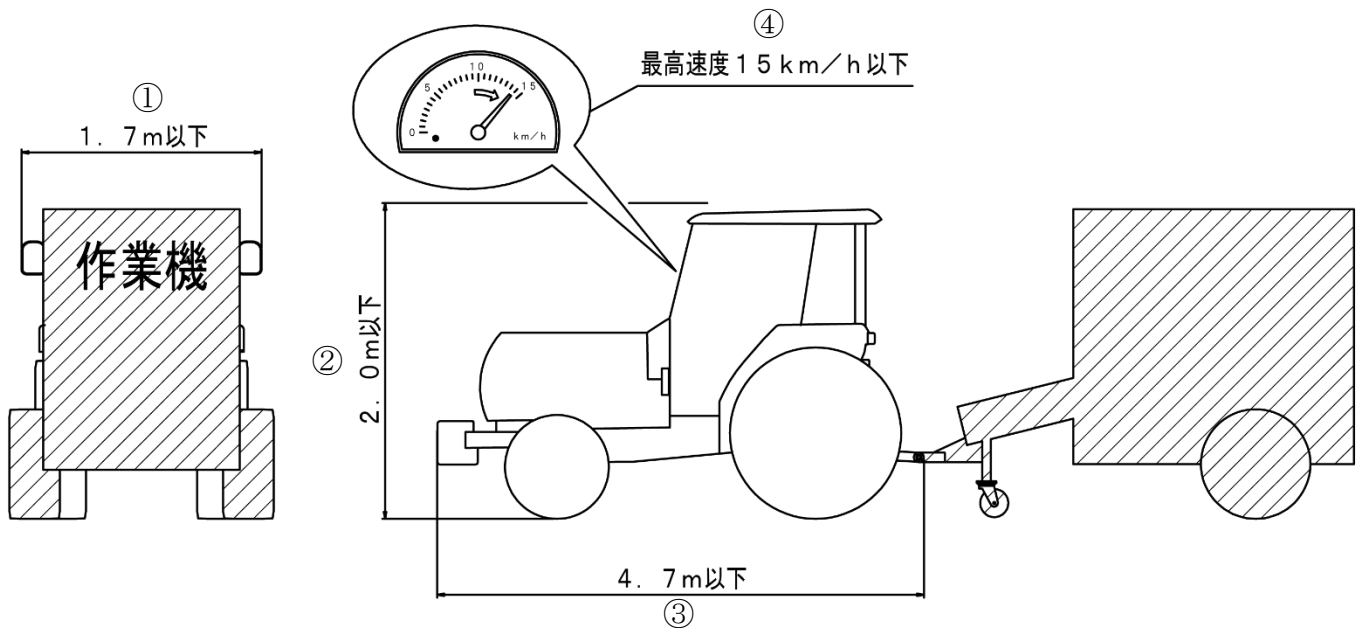
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15 km/h以下の場合には小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許（農耕用に限る、も含む）とけん引免許（農耕用に限る、も含む）が必要となります。ただし、車両総重量750 kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許（農耕用に限る、も含む）は必要ありません。

① 幅1.7m	② 全高2.0m (安全キャブや安全フレームは2.8m)
③ 全長4.7m	④ 最高速度15 km/h以下

下図を参考にご確認ください。



⚠ 安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] <u>①一般的な大きさのもの ※1</u> ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	<u>②全幅が 2.5m を超えるもの</u> ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 <u>③長さが 12m または全高 3.8m を超えるもの</u> ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] <u>①一般的な大きさのもの ※2</u> ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 <u>②長さが 12m または高さが 3.8m を超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの</u> ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅 2.5m、全長 12m、全高 3.8m を超えない大きさのもの

※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が 12m を超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認いただき、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置

けん引をするトラクタは全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高2.0m以下、かつ最高速度15km/h以下

YES

NO

前面：A. 前部反射器
後面：B. 後部反射器
D. 方向指示器
を取り付ける必要があります。
※車幅灯、尾灯、制動灯、および
後退灯は取り付け義務がないので
備える必要はありません。
次頁の取付け例1を参照してください。

前面：A. 前部反射器
C. 車幅灯
後面：B. 後部反射器
E. コンビネーションランプ
F. 後退灯
を取り付ける必要があります。
※トラクタと農耕作業用トレーラの
連結全長が6m未満の場合は、
農耕作業用トレーラの後面方向指示器は
必要ありません。
次頁の取付け例2を参照してください。

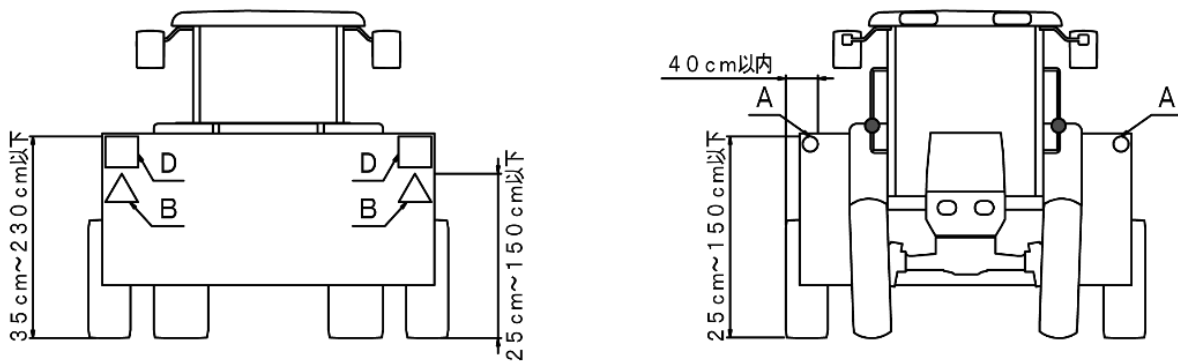
A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

⚠ 安全に作業するために

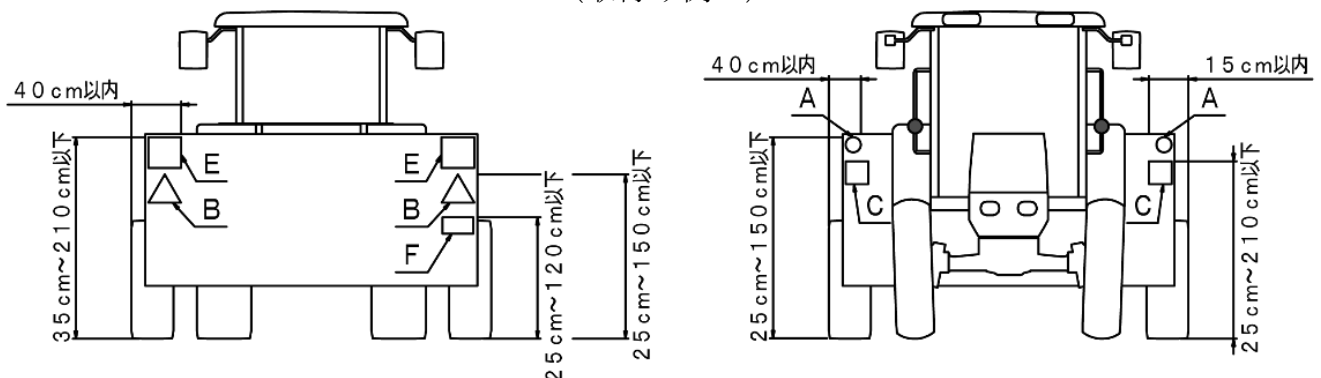
● 装備の取付け位置

- ・ 道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。
 - 前部反射器(リフレクタ) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
 - 後部反射器(リフレクタ) 最外側から40cm以内、高さは地上25cm以上150cm以下
 - 車幅灯(ポジションランプ) 最外側から15cm以内、高さは地上25cm以上210cm以下
 - 方向指示器(ウインカ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上230cm以下
 - 尾灯(テールランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
 - 制動灯(ブレーキランプ) 最外側から40cm以内、高さは地上35cm以上210cm以下
 - 後退灯(バックランプ) 高さは可能な限り25cm以上120cm以下
- ・ 車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
 - ・ コンビネーションランプは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
 - ・ 後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

(取付け例1)

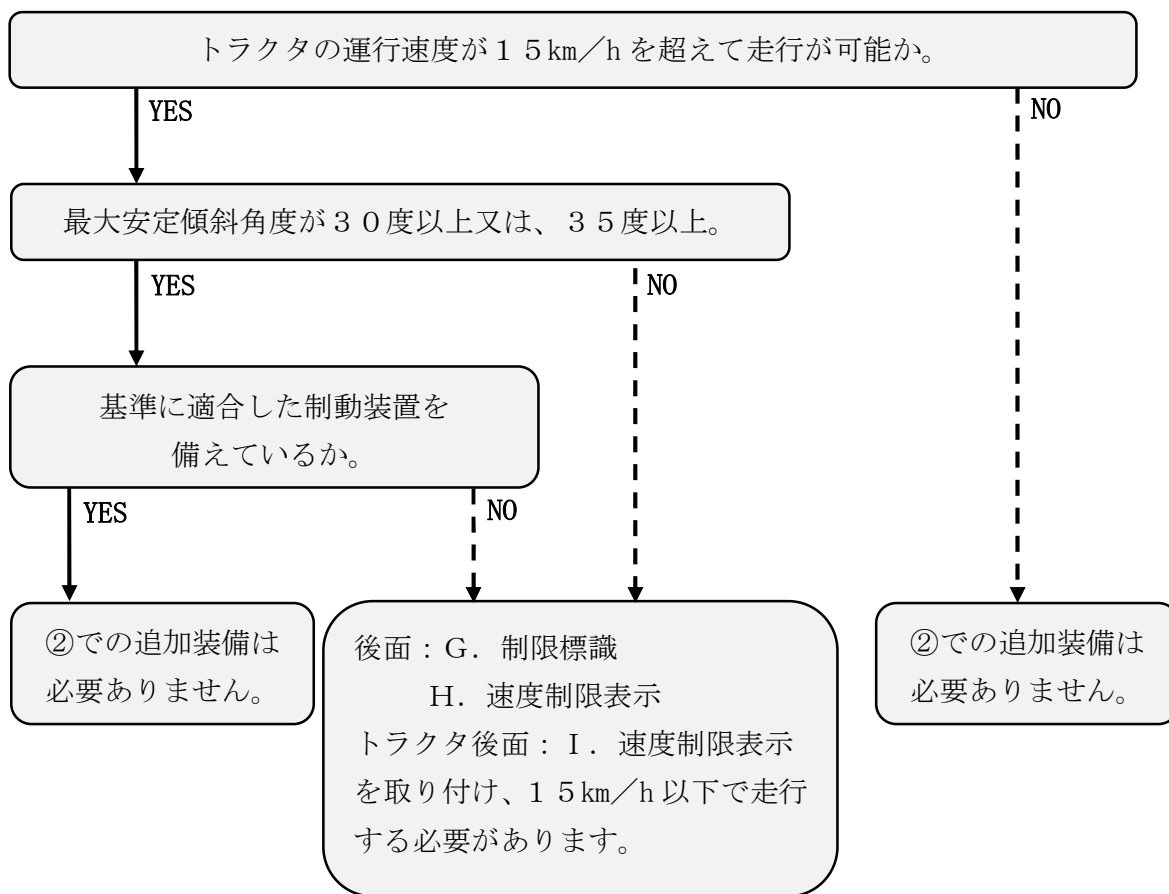


(取付け例2)



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15km/h以下で走行してください。

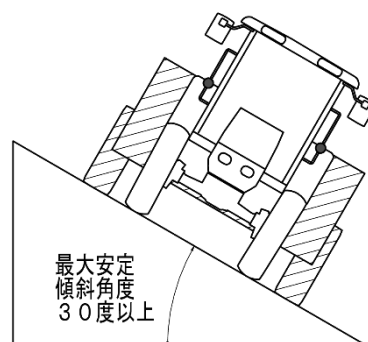
<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上（車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの）であれば、通常ので速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、

Hを作業機後面に表示、
Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。

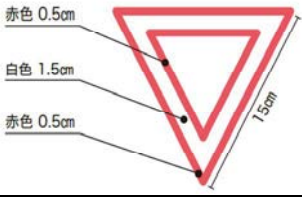




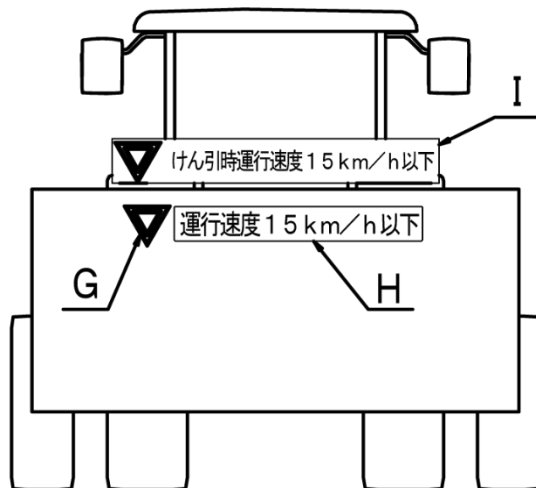
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

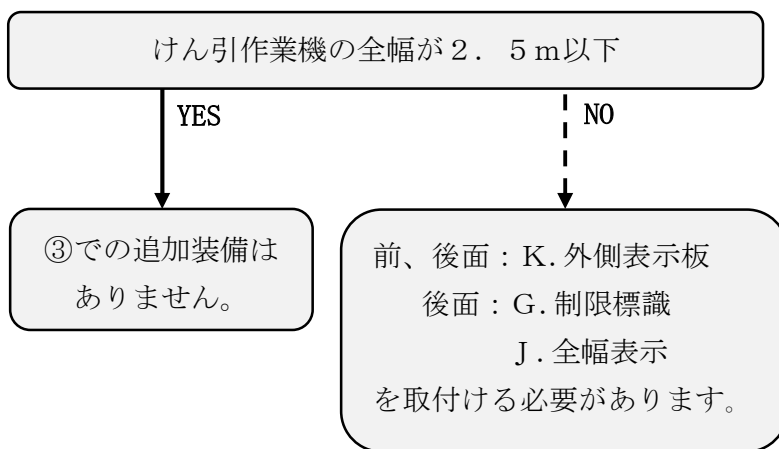
- ・ G、H、I は後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ H は運転席にも表示する必要があります。

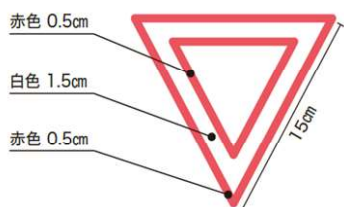
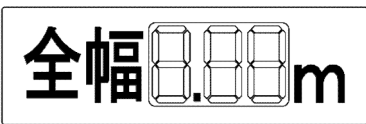

(取付け例)

<p>G. 制限標識</p> 	<p>H. 速度制限表示 (作業機側)</p> 
<p>I. 速度制限表示 (トラクタ側)</p>	
	



③ 作業機装着時の全幅



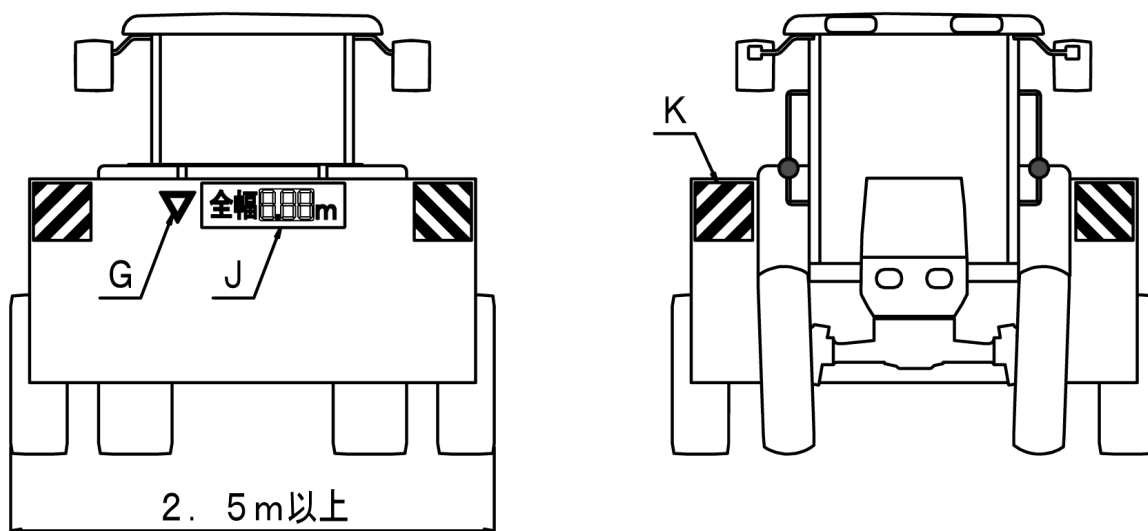
<p>G. 制限標識</p> 	<p>J. 全幅表示</p> 	<p>K. 外側表示板</p> 
--	---	---

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

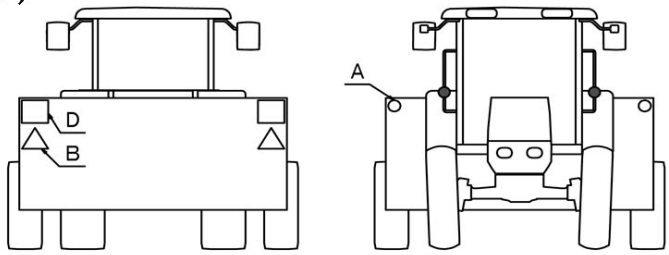
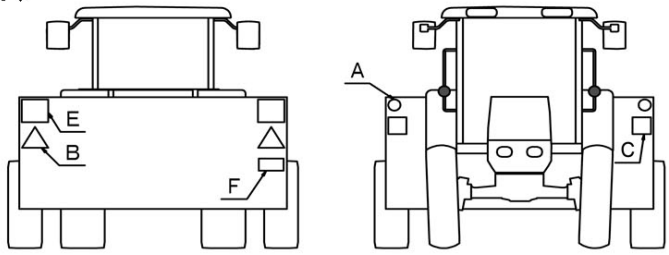
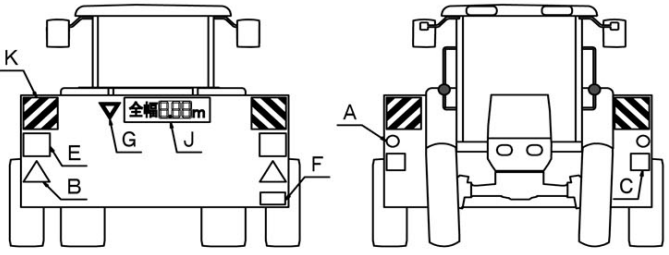
- ・ G、Jは後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ Kは前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカ 取り付け例

<p>灯火器取り付け位置</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯</p> </div>	<p>全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合</p>	<p>(ア)</p> 
	<p>上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合</p>	<p>(イ)</p> 
	<p>全幅が2.5mを 超える場合</p>	<p>(ウ)</p> 

灯火器・ステッカ

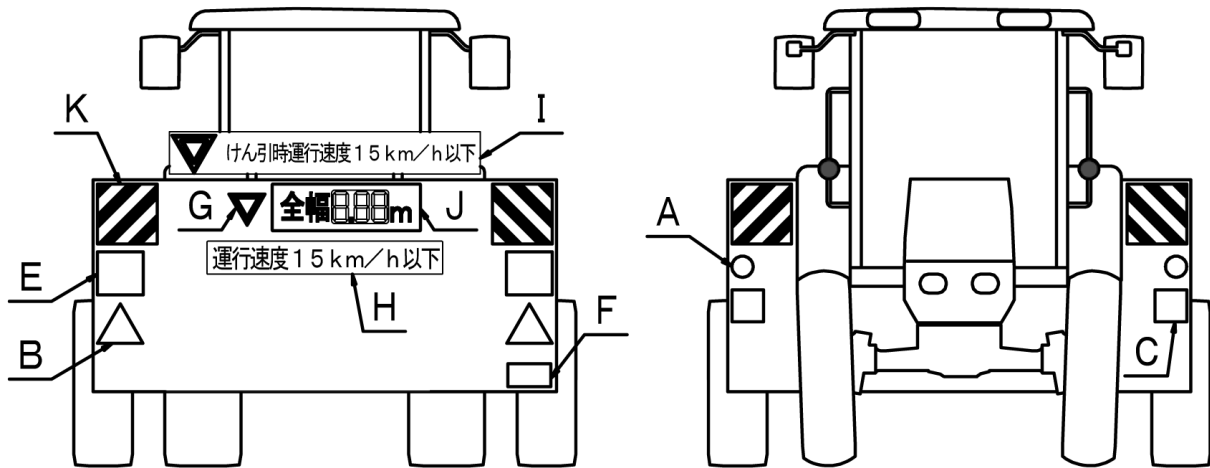
A. 前部反射器	B. 後部反射器	C. 車幅灯	D. 方向指示器	E. コンビネーションランプ
				
F. 後退灯	G. 制限標識	H. 速度制限表示 (作業機側)	I. 速度制限表示 (トラクタ側)	
				
J. 全幅表示	K. 外側表示板			
				

※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

- p. 5 「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

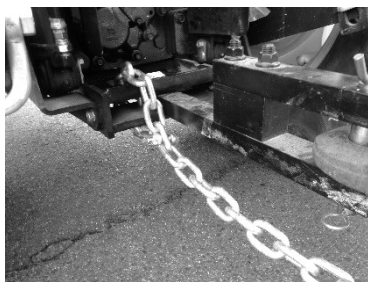
例：(ウ) に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件(分離時の連結維持構造)に関して

農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置(ドローバ等)が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。

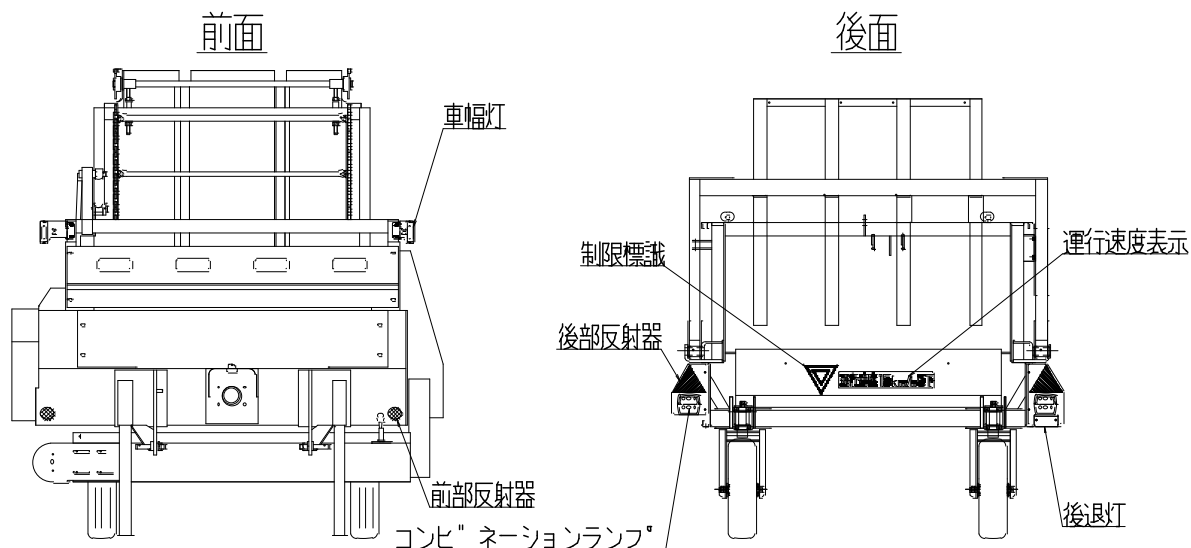


セーフティチェーン

⚠ 安全に作業するために

(5) 本機の公道走行対応について

公道走行を行う場合には、公道走行対応テールランプアタッチ (RC1831-TL) の取付けが必要です。保安基準の緩和により運行速度 15 km/h 以下で公道走行することができます。



公道走行対応テールランプアタッチ (RC1831-TL) には、トラクタと作業機を連結するためのセーフティチェーンと固定用のシャックルを付属しています。作業機をトラクタでけん引して公道走行する際は必ず取付けてください。



セーフティチェーン

シャックル

⚠ 安全に作業するために

公道走行対応テールランプアタッチ (RC1831-TL)には、トラクタ運転席に表示する全幅表示と運行速度表示を付属しています。

本機は全幅が1.98mであるため、全幅表示には手書きで数値欄に「1.98」、型式欄に「RC1831」と記入していただき運転席から確認できる位置に表示してください。

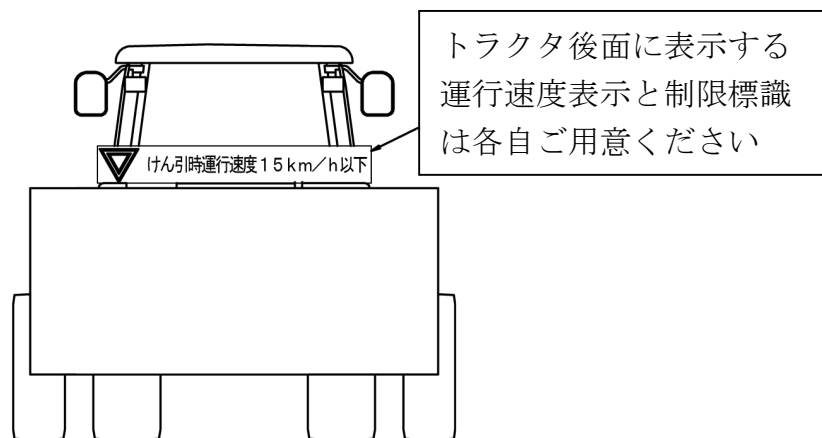
全幅表示 (トラクタ運転席用)



運行速度表示 (トラクタ運転席用)



ただし、トラクタ後面に表示する運行速度表示及び制限標識は付属されていません。お客様ご自身でご用意ください。



詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>)をご覧ください。

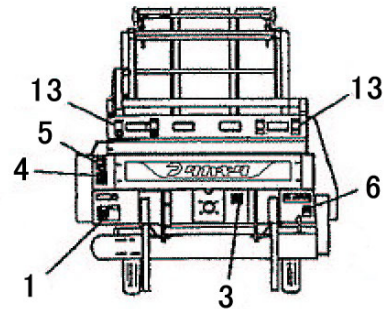
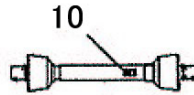
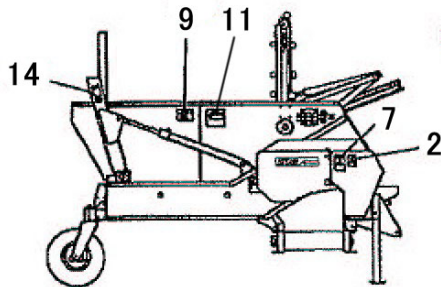
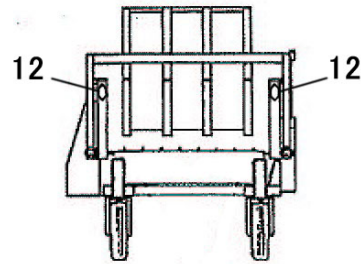
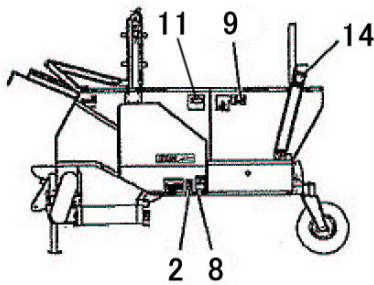
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

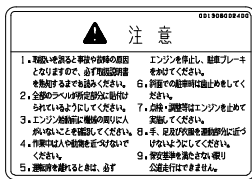
本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置



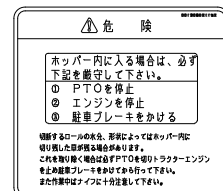
- ①部品コード 00130-6002-400 ⑤部品コード 00130-6000-210 ⑨部品コード 00130-6000-320



- ②部品コード 00130-6000-070 ⑥部品コード 00130-6000-220 ⑩部品コード 00130-6000-310



- ③部品コード 00130-6000-960 ⑦部品コード 00130-6000-300 ⑪部品コード 00130-6001-150

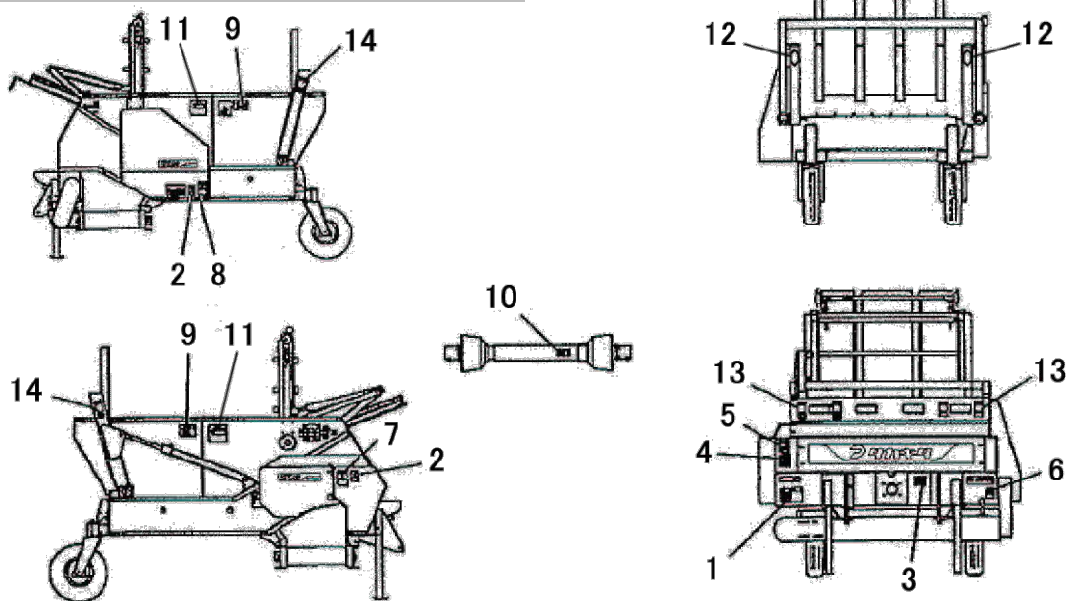


- ④部品コード 00130-6000-190 ⑧部品コード 00130-6000-310 ⑫部品コード 00120-6001-010



⚠ 安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置



⑬部品コード 00130-6000-060 ⑭部品コード 00130-6000-790



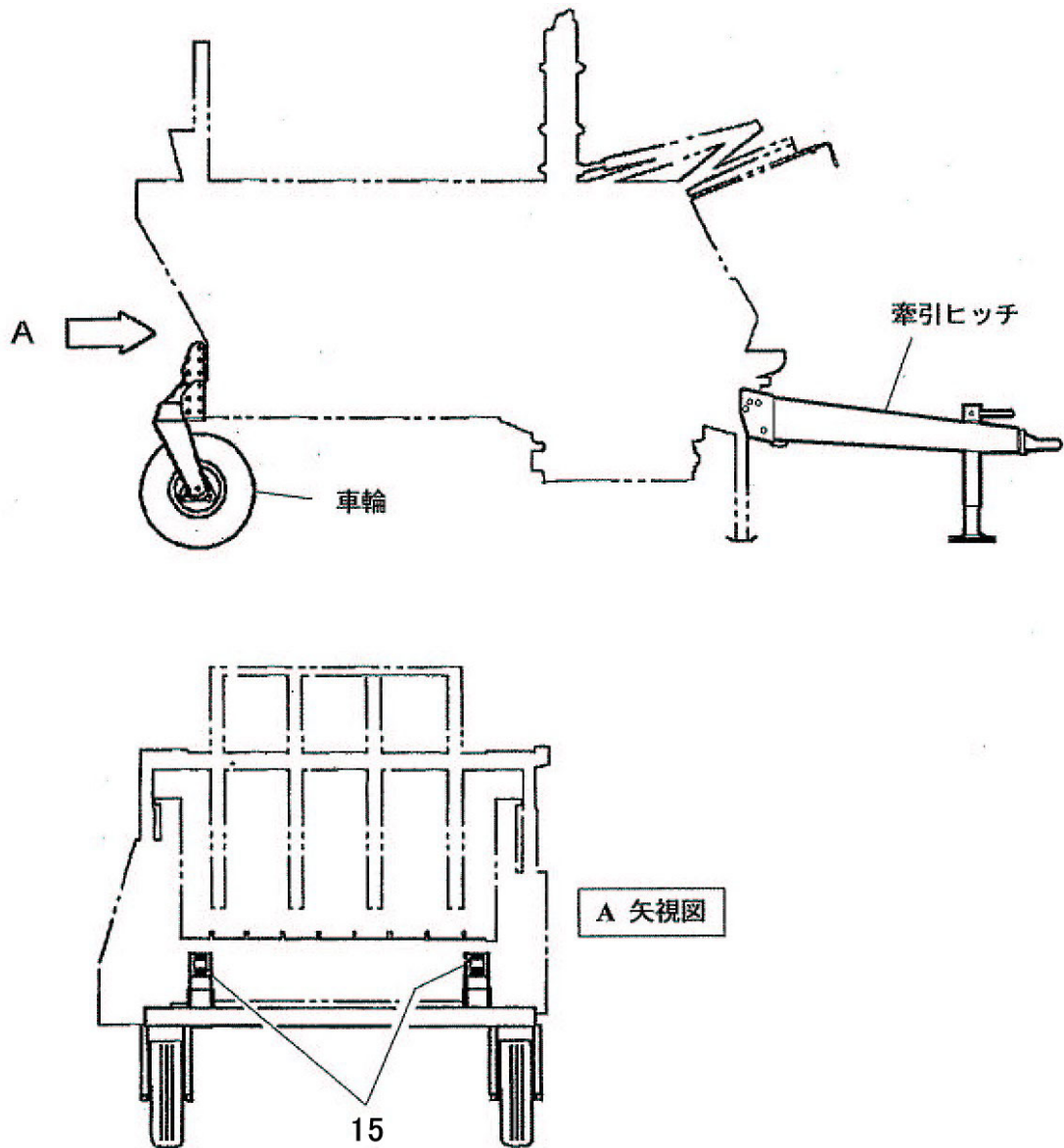
警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、柔らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

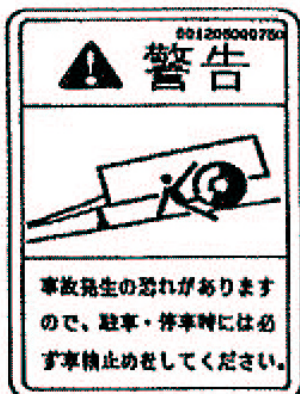
⚠ 安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置

(RC1831D)



⑮部品コード 00120-6000-750



⚠ 本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、牧草、稲わら、麦わらのロールベール切断にご使用ください。

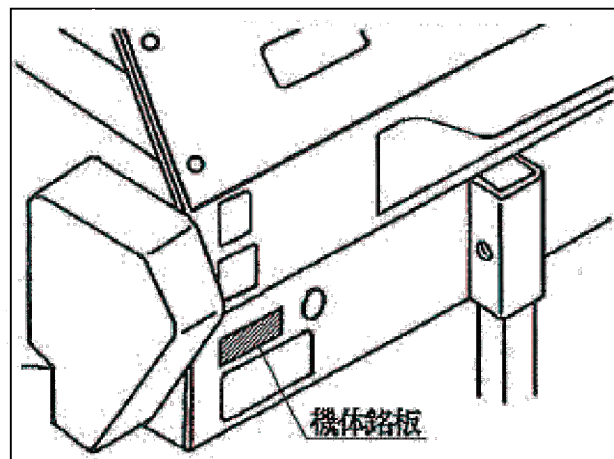
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

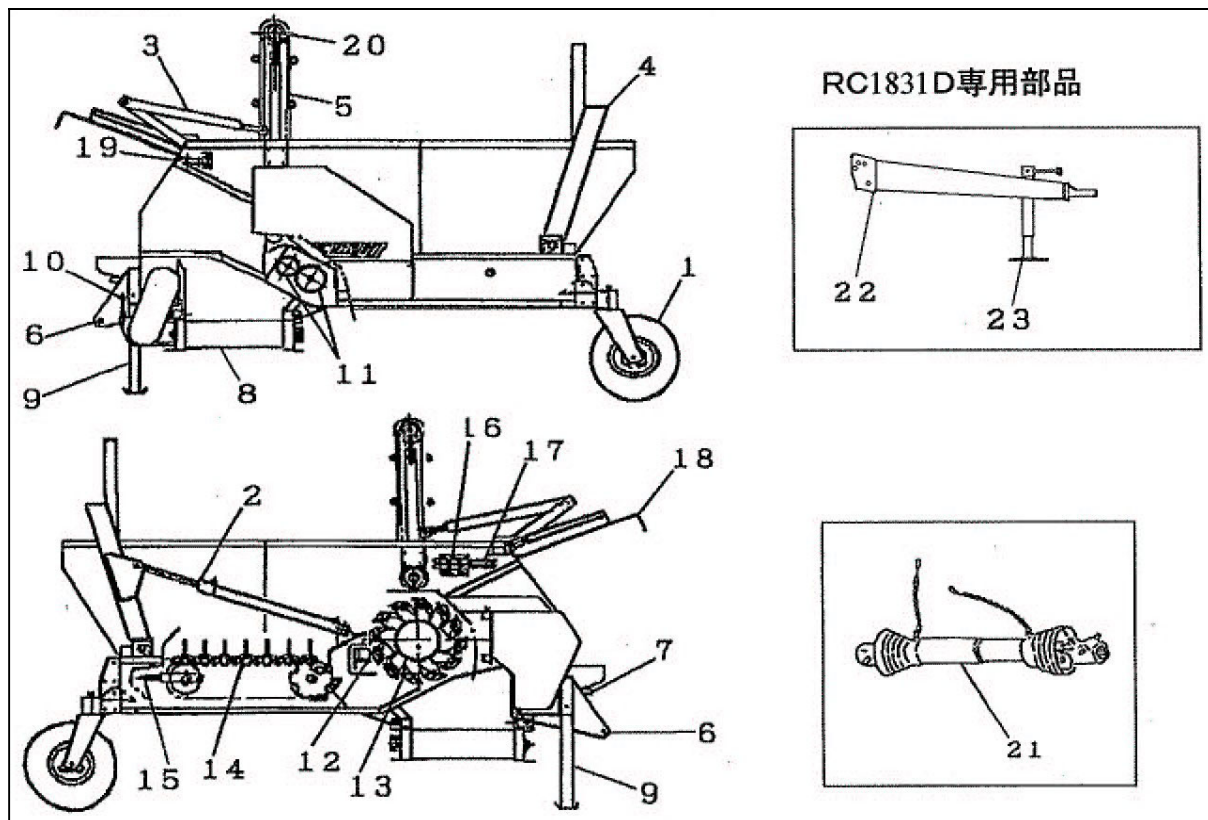
- 品名と型式
- 機体No. (SER-NO.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

品名	ロールカッタ
型式	RC1831
機体No. (SER-NO.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



	名 称	は た ら き
1	タイヤ	キャスト輪 (RC1831)
2	油圧シリンダ (リヤゲート用)	リヤゲートを上下させるシリンダ
3	油圧シリンダ (サブコンベア用)	サブコンベアを前後させるシリンダ
4	リヤゲート	ベールを前方へ送り込む
5	サブコンベア	切断中のベールに回転を与えるコンベア
6	●ロアリンクピン	トラクタのロアリンクと連結するピン
7	入力軸	本機側の動力取入れ軸
8	クロスコンベア	切断物を横出しするコンベア
9	スタンド	トラクタとの脱着時及び保管時に使用する
10	コンベア切換えレバー	コンベアの停止及び切断物を右出、左出に切換えする
11	切断長切換えギヤ	ベールの理論切断長を 25mm、41mm に切換えするギヤ
12	固定刃	ナイフの回転を受けて、ベールを切断する
13	ナイフ (回転刃、カッターナイフ)	回転しながらベールを切断する
14	フロアコンベア	ベールに回転を与え、前方へ送る
15	フロアコンベアテンション	チェーンの張り調整を行う
16	油圧バルブ	リヤゲート、サブコンベアのシリンダを作動させるバルブ
17	油圧操作レバー (右側)	右側で油圧バルブを操作するレバー
18	油圧操作レバー (運転席側)	運転席で油圧バルブを操作するレバー
19	油圧操作レバー (左側)	左側で油圧バルブを操作するレバー
20	サブコンベアテンション	サブコンベアチェーンの張り調整を行う
21	ユニバーサルジョイント	トラクタの動力を伝えるジョイントシャフト
22	★けん引かん	本機とトラクタを連結するフレーム
23	★ジャッキスタンド	トラクタに連結時、ヒッチ高さの調整をする

●印 : RC1831 専用部品

★印 : RC1831D 専用部品

トラクタへの装着

警告

- トラクタへの本機装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
- ロアリンクへの装着はトラクタの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントの接続は、必ずトラクタのエンジンを止め、PTO クラッチを切ってから確実に取付けてください。

以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. ロアリンクへの装着のしかた

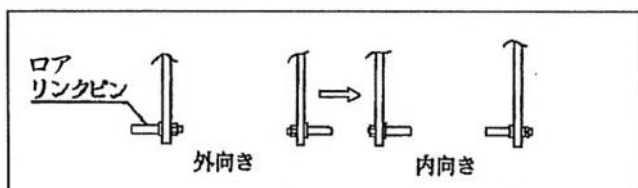
◆ロアリンクの装着順序 (RC1831)

左のロアリンク、右のロアリンクの順序で取付けてください。

カテゴリⅡの場合、ロアリンクに装着の場合付属のカラーを取付けしてください。

注意

- カテゴリⅠの場合、トラクタによってはロアリンクピンを内向きを取付けた方がよい場合もあります。



◆平行状態に調整する

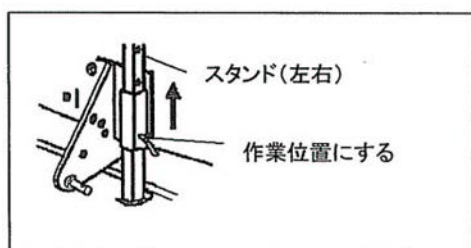
トラクタ側のリフティングロッドを使用して本機が左右平行になるように調整してください。

◆チェックチェンで横振れ調整

運搬時及び作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェンでトラクタ中心に本機中心が一致するように左右均等に固定してください。

◆スタンドを上げる

トラクタのロアリンクを少し上げて、スタンドを持ち上げ作業位置にセットしてください。



2. ドローバへの装着のしかた

◆ドローバへの装着 (RC1831D)

- ①ドローバを一番短い位置にしてください。
- ②本機・けん引かんの取付け部を、ジャッキスタンドを操作してトラクタのドローバの高さに合わせ、トラクタを後進し、穴位置を合わせてヒッチピンで確実に装着してください。

注意

- ドローバを最短にして、本機を装着してください。
- ヒッチピン挿入後は必ずリンチピンを入れ、抜け止めしてください。

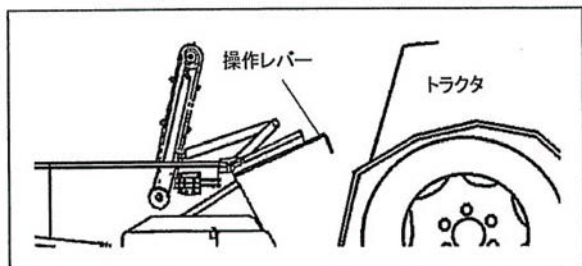
◆ジャッキスタンドを取外し、再度格納位置へ取付ける

けん引かん装着後、ジャッキスタンドを操作してジャッキを縮めて取外し、下図のとおり格納位置に再度取付けてピンで固定してください。

トラクタへの装着

3. 油圧操作レバー（運転席側）の調整

ロアリンクを上昇させた時、または旋回した時は、油圧操作レバーが運転席に干渉しない位置でレバーの高さ、及び長さを調整してください。



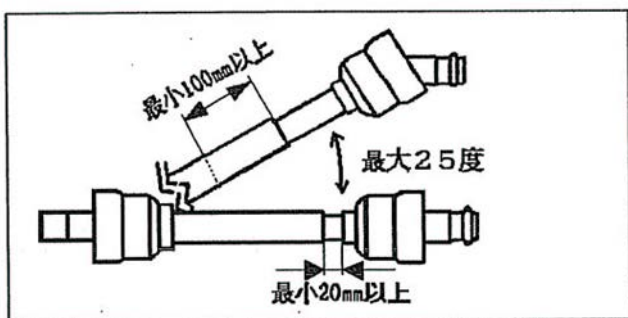
4. ユニバーサルジョイントの取付け

◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタ PTO 軸に確実に取付けてください。

◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは、ロアリンクによる本機の上昇・下降または旋回時に変化します。先に、ジョイントが長すぎないかを確認してください。長すぎる時は、下図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

●作業時のジョイント角度は最大25度を超えないよう調整をしてください。25度を超えるとジョイント破損の原因となります。

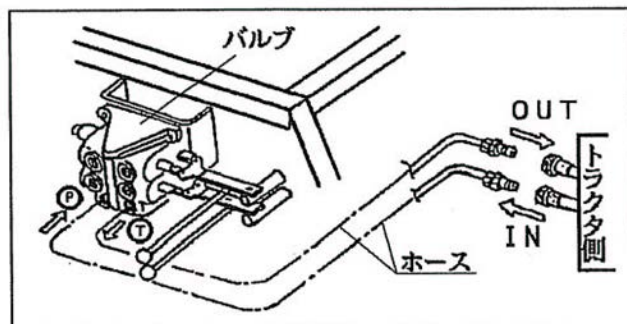
◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけてしっかりと固定をしてください。

5. 油圧ホースの接続

◆接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。
- ②油圧ホース（2本）をトラクタの複動力カップラに接続してください。



注意

- 油圧ホースを接続する時、油圧カップラを逆（OUT、IN）にしないでください。逆の場合、シリンダは作動しません。
- 油圧ホースをトラクタから外した時は、必ず付属のダストキャップをカップラに差込み、傷をつけないようにしてください。

運転に必要な装置の取扱い

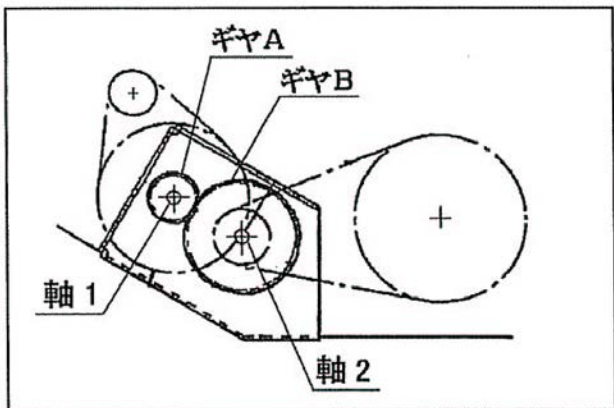
1. 切断長切換えのしかた

- ◆ギヤの組合せで切断長を変える
ギヤを止めているリンチピンを外し、ギヤA、ギヤBを入れ換えます。
- 25mm 切断を行う場合（図表参照）
軸1にギヤA（22T）
軸2にギヤB（28T）
を入れた組合せとなります。

注意

出荷時のギヤの組合せは 25mm 切断です。
（ギヤ 22T とギヤ 28T の組合せ）

- 41mm 切断を行う場合（図表参照）
軸1にギヤB（28T）
軸2にギヤA（22T）
を入れた組合せとなります。



ギヤ組合せ		理論 切断長/mm	
軸1	軸2		
22T	28T	25	標準装備
28T	22T	41	
15T	35T	14	オプション
35T	15T	75	

注意

15T、35T ギヤはオプションとなります。

注意

- 表中の切断長は、理論切断長のため目安としてください。また、ベールがやわらかい時や、ベールの芯部は切断長が長くなります。（切断長が不揃いとなります。）
- 切断長を長くするほど所要動力は増大します。



警告

ギヤの組換えを行うときは、必ずPTOを止めてから行ってください。これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

2. 切断物排出方向の切換え

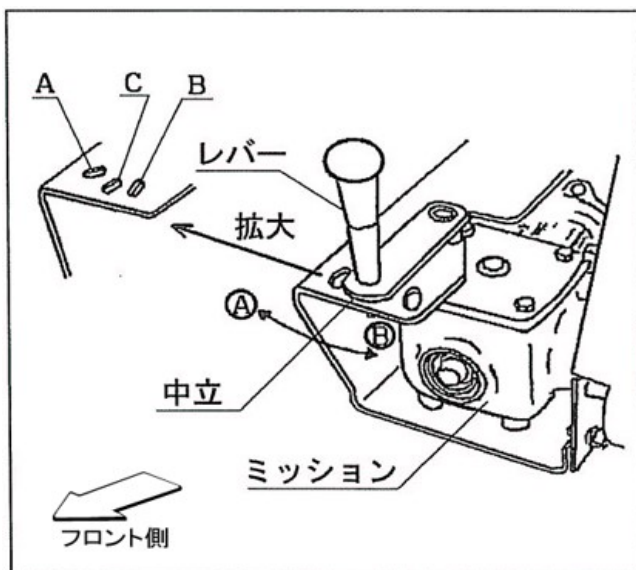
クロスコンベア用ミッションのギヤの切換えによって行います。

◆レバー操作で右出し、左出しを行う

切換えレバーを左右に動かすことによって、切断物の右出し、左出し及びコンベアの停止ができます。

トラクタの進行方向に対して

- 左側へ出す場合→レバー位置A
- 右側へ出す場合→レバー位置B
- 停止する場合 →レバー位置C



運転に必要な装置の取扱い

3. 機体高さ調整のしかた

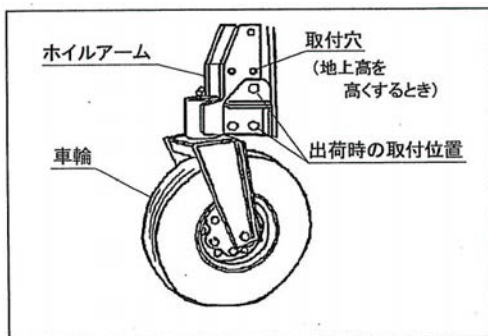
車輪の取付け位置で機体の地上高を変えることができます。

◆クロスコンベア 地上高の調整

機体高さの調整は、主にクロスコンベアの地上高を高くするときに行います。

●地上高を高くするときは、ホイールアームの穴位置上部を使い、車輪全体を下げます。

●出荷時は低い状態に車輪を組付けしてあります。



注意

●機体の地上高を上げすぎると、ジョイントに角度がつきすぎて破損の原因となりますので、ジョイント角度は必ず25度以下にしてください。

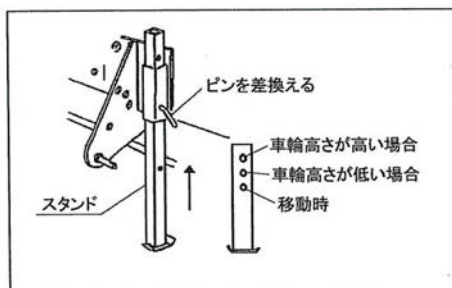
●牛舎内で作業する場合、入口あるいはパイプラインなどの高さに注意して上げすぎないようにしてください。

4. スタンドの上下調整

本機をトラクタに装着後は、スタンドを上げてください。

◆スタンドの上下調整について

走行するときは必ずスタンドの下の穴を利用して、スタンドを上げてください。



注意

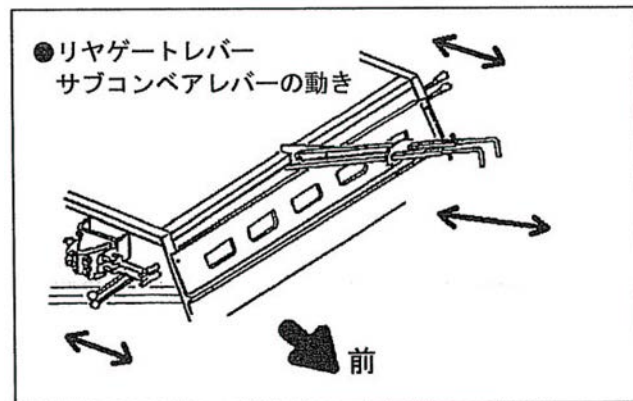
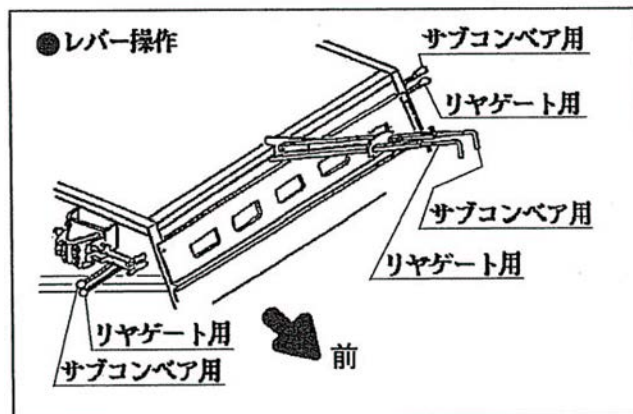
トラックなどで本機を運搬する場合、フレームの下にお手持ちの角材等の台を入れて本機を支えてください。

スタンドだけで運搬すると、スタンドが曲がる場合があります。

5. 油圧操作について

◆油圧操作レバーについて

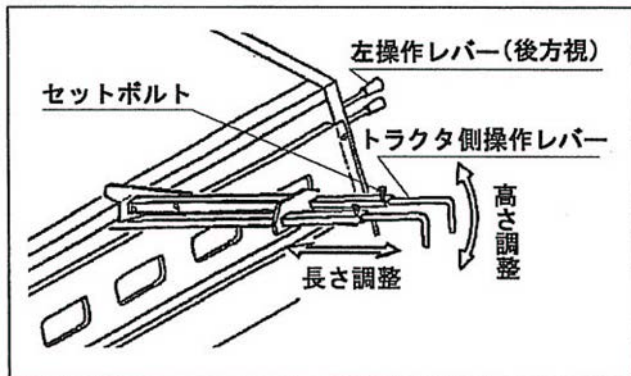
リヤゲート及びサブコンベアを揺動します。油圧操作は操作レバーにより、トラクタ側及び機体左右の3方向から操作できます。



運転に必要な装置の取扱い

◆油圧操作レバーの高さ・長さの調整のしかた

セットボルトをゆるめ、レバーを伸縮させて使用するトラクタに高さ・長さを合わせてください。



注意

トラクタのロアリンクを上げて、操作レバーがトラクタなどに接触干渉をしない位置であることを確認してください。



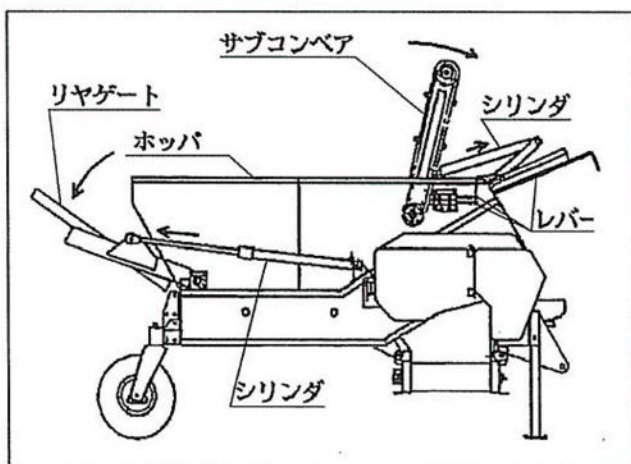
警告

レバー調整を行うときは、必ずPTOを止めてから行ってください。

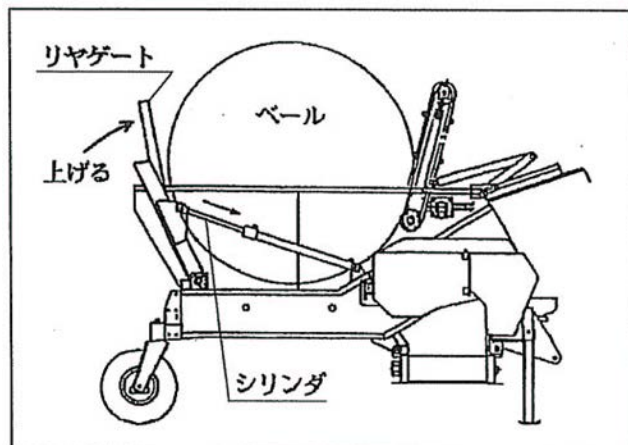
これを怠ると傷害の発生の恐れがあります。

◆リヤゲート・サブコンベアの操作

①ベールを乗せるときは、リヤゲート及びサブコンベアのレバーを操作して、ベールが乗せやすい状態に広げてください。



②ベール切断作業を開始するときは、リヤゲートを少し上げてベールを前方へ送り込んでください。



ベールの切断が進むとベール径が小さくなっていきます。ベール形状に合わせてリヤゲートをベールに添わせるように上げていってください。

そのまま放置すると、草種によっては切断時間が長くなったり、ベールの回転が悪くなったりします。

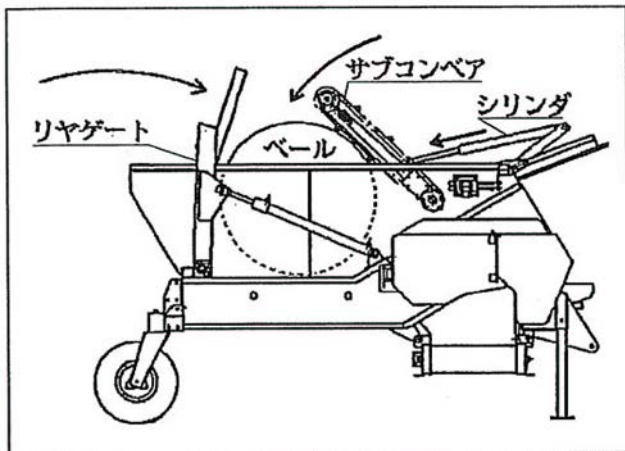
注意

●通常の作業はベールにリヤゲートが軽く当たる程度までシリンダを縮めてください。

押さえすぎるとサブコンベアの駆動ベルトがスリップし、サブコンベアが停止することがあります。この場合は、リヤゲート少しを戻してください。

運転に必要な装置の取扱い

- ③切断が進み、ベール芯部（あまり草が圧縮されていない部分）を切断する場合は、サブコンベアを徐々に倒しベールに添わせてください。

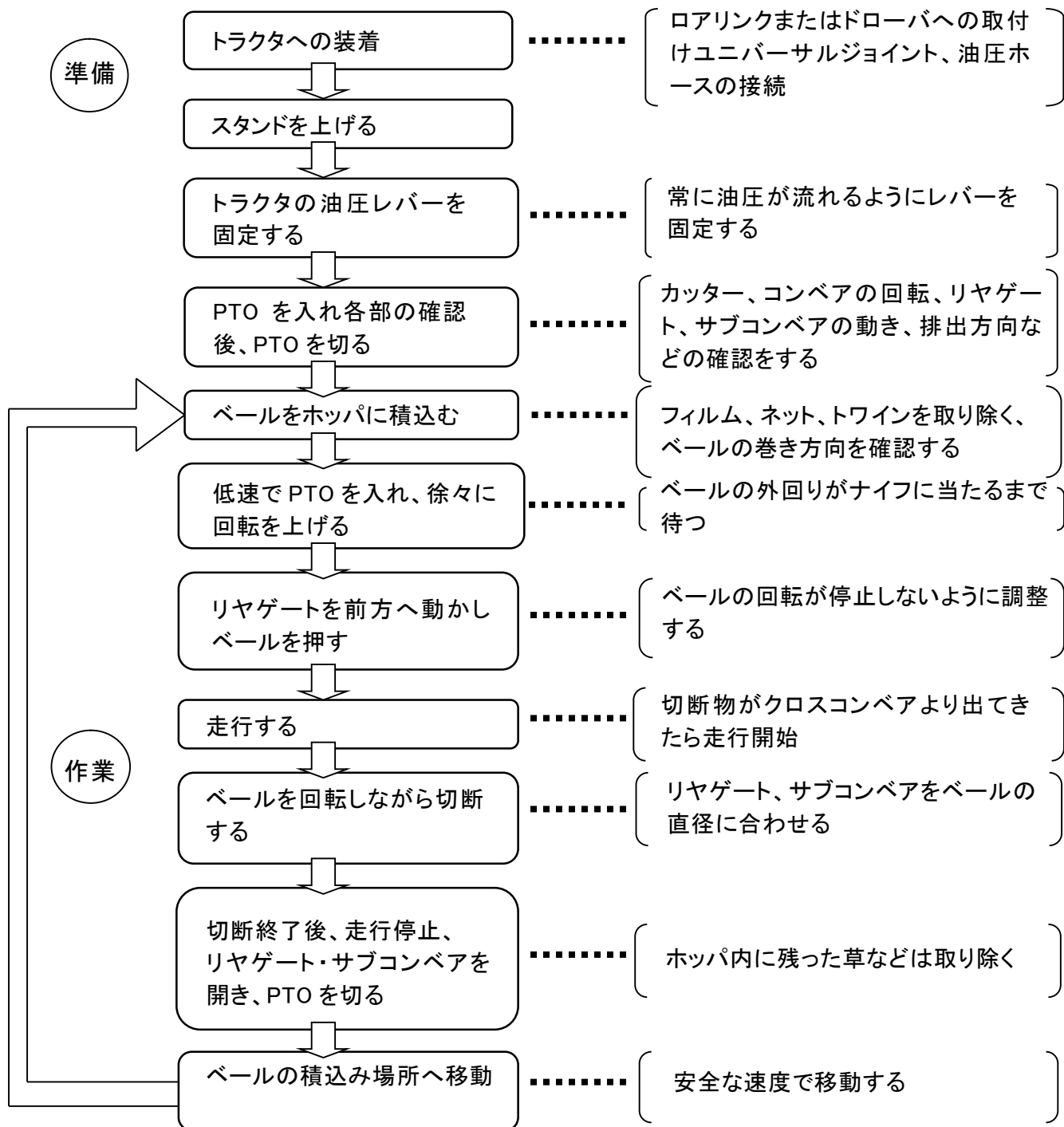


注意

- サブコンベアは必要に応じて上下してください。
- サブコンベアでベールを押しすぎると駆動ベルトがスリップし、サブコンベアが停止する場合があります。この場合は、サブコンベアを少し戻してください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 移動するとき

移動するときは、必ず本機を十分な高さまで上げてから走行してください。



警告

- ①本機を装着しての運転は、道路およびまわりの条件に適した速度で行ってください。絶対に急発進・急ブレーキ、急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

3. 前進⇔後進に移るとき

本機の車輪はキャスタになっております。前進から後進に移る場合またはその逆の場合、車輪が半回転(180度)するため、機体が左右に揺れます。広い場所で方向転換してください。



注意

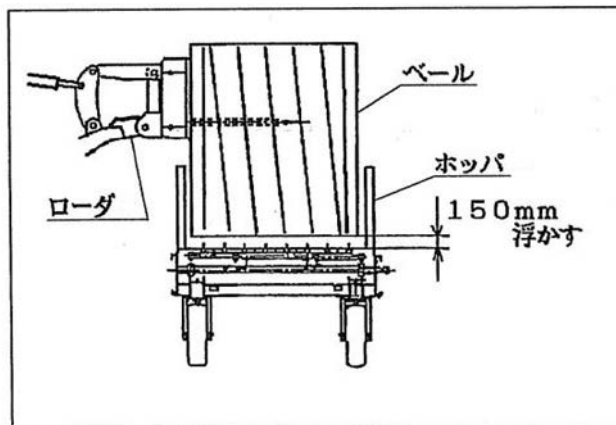
狭い場所や牛舎内および人や動物が近くにいるときは、前進⇔後進への切換えはしないでください。

4. ベールの積込み方法

◆ホッパに積込むときは

本機を水平にしてリヤゲート、サブコンベアを開いてください。

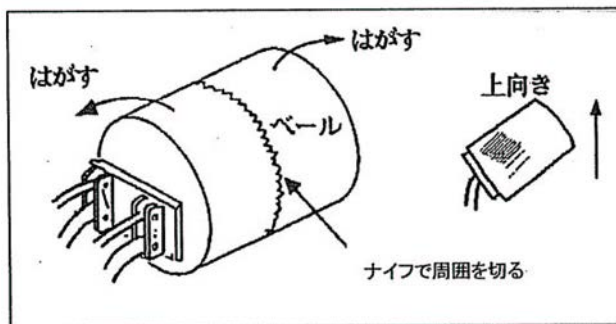
- ①フロントローダのホークなどを利用してホッパに積込みます。
- ②ベールをホッパの床より少し浮かせた状態(150mm)でトワイン、ネットなどを取り除きます。
- ③ベールを完全にホッパ内の床に降ろしてからホークを抜いてください。



◆ラップフィルムのはがし方

ラップベールのフィルムを取り除くときは下図を参考にするのとトワインを切ることなく、フィルムを取り除くことができます。

- ラップベールをホークで突き刺して、作業しやすい位置まで持ち上げる。
- ホークは上向きにする。



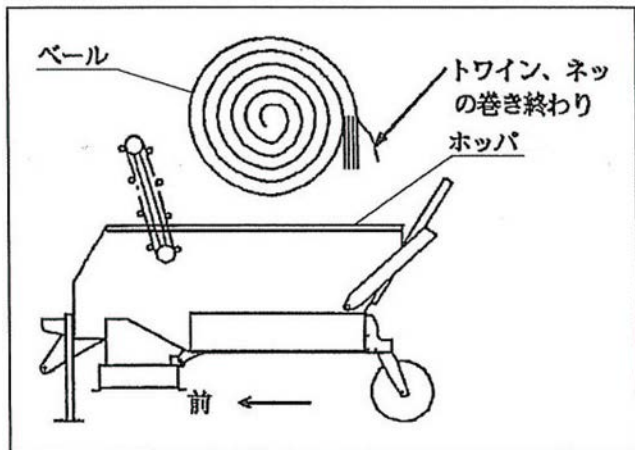
注意

ラップフィルムを取り除く作業は、ベールをホッパに積込む前に行ってください。

作業方法

◆ベールの積込み方向

- ベールの積込み方向は下図の方向にすると、切断時間が速くなります。



注意

ベールをホッパに積込む前にトワインまたはネットの巻き終わり部分を確認してください。

5. 切断長の設定

24 ページを参照して、所定の切断長となるようにギヤの組合せを選んでください。

6. ベール切断の方法

◆PTO を入れてください

PTO 回転速度は $540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ にしてください。

注意

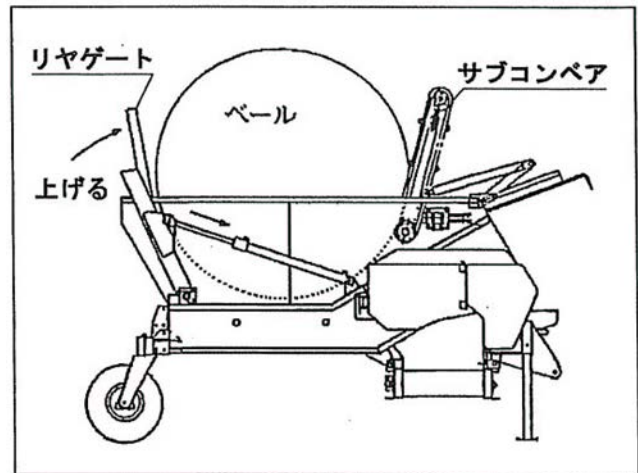
2速 PTO のあるトラクタの場合は、PTO を高速側に入れて、PTO 回転速度が $450\sim 540\text{min}^{-1}(\text{rpm})$ となるようにエンジン回転速度を調整してください。エンジン回転速度を上げずに能率的に作業が出来ます。

◆切断草の排出方向を決める

クロスコンベアのレバー操作をして、切断草の右出か左出しかを決めてください。(24 ページ参照)

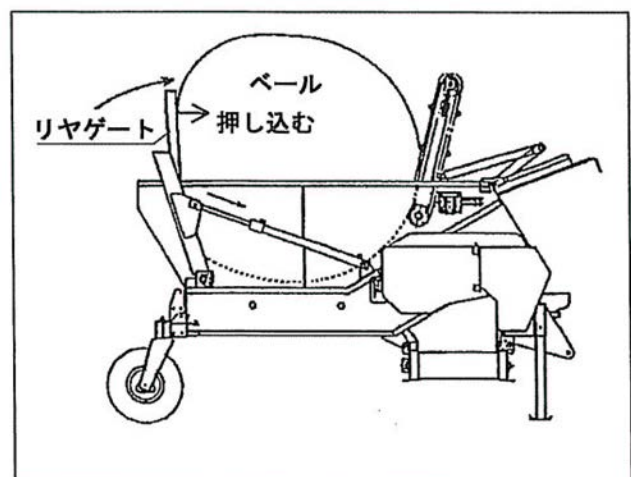
◆リヤゲートをベールに添わせる

油圧操作レバーを操作して、リヤゲートを上げてベールに添わせるようにしてください。また、ベールの切断進行に合わせて、リヤゲートを上げてください。



◆乾燥ベールのときは

リヤゲートでベールを押し込みます。乾燥ベールの場合はベールの回転力が大きいために、カッタ部へくい込むまでに時間がかかる場合があります。このようなときは、リヤゲートをさらに上げてベールを少し押し込むようにしてください。切断時間が速くなります。



注意

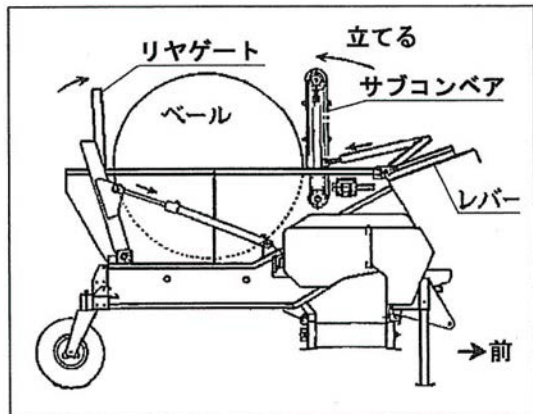
リヤゲートでベールを押しさえすぎると、サブコンベアが停止することがあります。停止したときは、リヤゲートを少し戻してください。

作業方法

◆サブコンベアを垂直にする

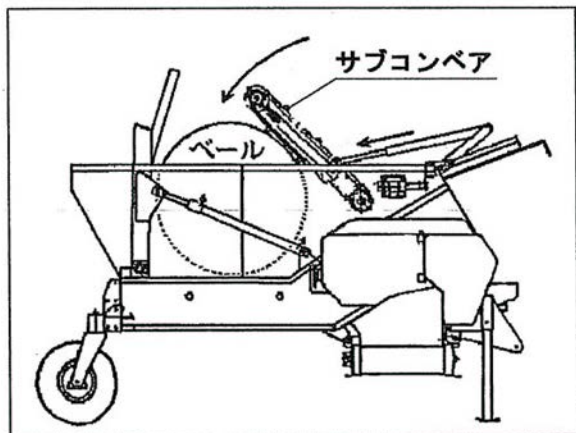
ある程度切断が進みましたら、サブコンベアを垂直に立ててください。広げたままにしておくと、草を前方に持ち回ることがあります。

☆リヤゲートはベール径に合わせて上げていってください。



◆サブコンベアを下げていく

更に切断が進みますと、ベール径が小さくなっていきます。リヤゲートがベールに添わなくなったら、サブコンベアを徐々に下げていってください。

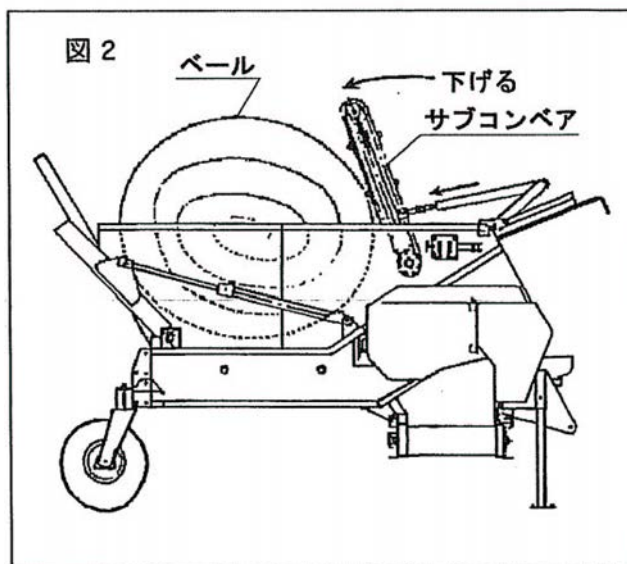
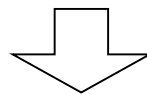
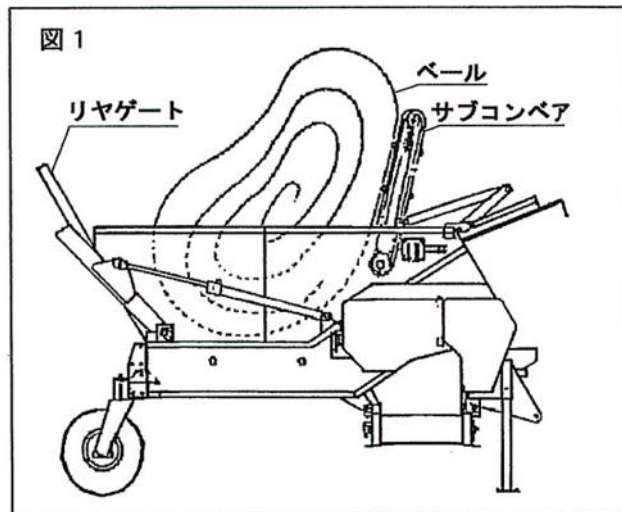


注意

- サブコンベアはベールに軽く当たる程度にしてください。押さえすぎると、サブコンベアが停止し、ベールの回転が悪くなります。
- ベールの回転が悪くなったらサブコンベアを2～3回上下させてください。
- サイレージの場合は早めにサブコンベアを下げていくと、ベールの回転がスムーズになります。

◆草丈の短いベール切断

ベールした草が短い場合、図1のように草がサブコンベアに乗り上がってくる場合があります。このような状態になったときは、サブコンベアを少し下げて（図2）乗り上がった草を後方へ送ってください。

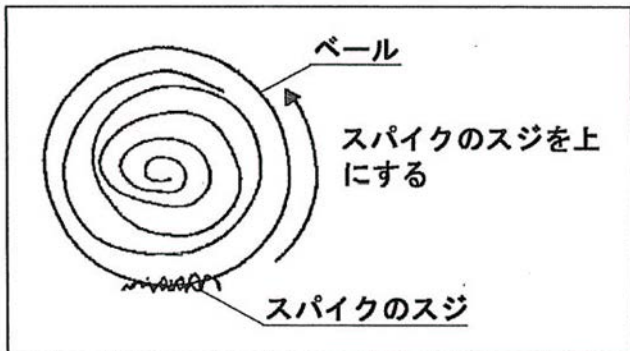


作業方法

◆ベールの乗せ換え

作業開始時または作業中において、ベールが回転しない場合、ベールをホッパから降ろし、角度を変えて乗せ換えてください。

- スパイクのスジがついていない部分が、床面に当たるようにします。
- 床面に残った草などは取り除いてください。

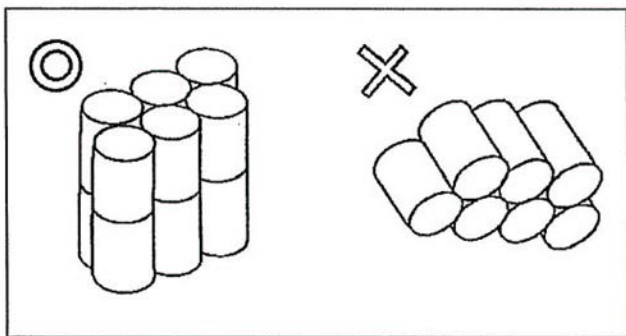


危険

ホッパ内の草などを取り除くときは、必ずPTOクラッチを切り、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから取り除いてください。

7. ベールの保管方法

- ベールを積み上げて保管する場合、縦積みになると、ベールの変形量が小さく、切断しやすい状態で保管できます。
- 横積みになると、下のベールが大きく変形し、切断しにくくなります。



8. 傾斜地での作業

- 5度以上の傾斜地では作業しないでください。
- ベールが片寄りして切断できません。また横転の危険がありますので、決して行わないでください。

9. トラクタからの切り離し

◆PTOを切り、エンジンを停止する

①PTOを切りエンジンを停止した後、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてから、ホースを外してください。

残圧を抜かないでホースを外してしまうと、再度油圧カプラに差し込めなくなります。

- ②★スタンドを下げる (RC1831)
★ジャッキを立てる (RC1831D)
- ③ユニバーサルジョイントを外してください。
- ④★ロアリンクから本機を外してください。(RC1831)

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。作業前の点検は、欠かさず行ってください。

警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたり危険です。
- 点検し整備をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No.	項目	内容	参照ページ	チェック
1	ナイフ（切断刃）のスキ間調整	固定刃とスキ間を 0.3～0.5mm とする	34	
2	クロスコンベアの草の巻付け	巻付いた草を除去する	—	
3	カッターヘッドの草の巻付け	巻付いた草を除去する	—	
4	フロアコンベア駆動用チェンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	36	
5	サブコンベアチェンの張り調整	たわみ量 5～10mm とする	36	
6	カッターヘッド駆動チェンの張り調整	少し遊びがある程度に張る	35	
7	クロスコンベアベルトの張り調整	たわみ量 10～20mm とする	36	
8	フロアコンベアの張り調整	テンションスプリングの長さを 53mm とする	36	
9	サブコンベアVベルトの張り調整	バネ長さを 110mm とする	35	
10	固定刃の摩耗、欠落	左右の入換えをする	35	
11	予備シェアボルト	不足のとき補充	37	
12	タイヤ	空気圧不足のとき、空気補充 (4kgf/cm ²)	38	
13	ナイフ（切断刃）の摩耗、欠落	研磨または新品と交換	34	
14	その他各部の注油、グリスアップ	各部への給油	39	

以上について異常が認められない場合は、PTO 回転数 500～540rpm まで徐々に上げ、1～2 分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

点	検	メ	モ

簡単な手入れと処置

⚠ 危険

ナイフの調整や、各部の調整をするときは、PTOを切りエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。手袋を必ず着用してください。取外したカバー類は、必ず取付けしてください。

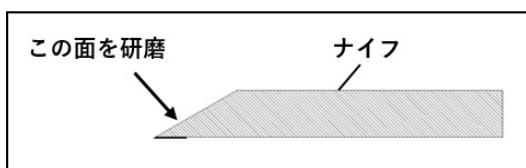
1. ナイフ（切断刃）の調整

ナイフの摩耗、欠落の状態で行うと、切断動力の増大、切断不良の原因となります。このような場合は研磨、交換をしてください。

◆切断ナイフの研磨

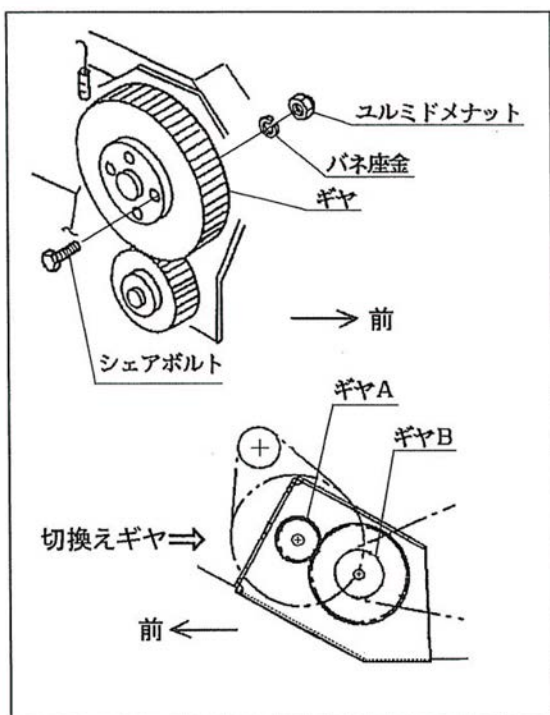
仕上用のディスクホイルで徐々に削ってください。

1回の削り量が多いと、発熱により焼が戻り、ナイフの減りが極端に早くなります。



◆ナイフ、すき間調整の方法

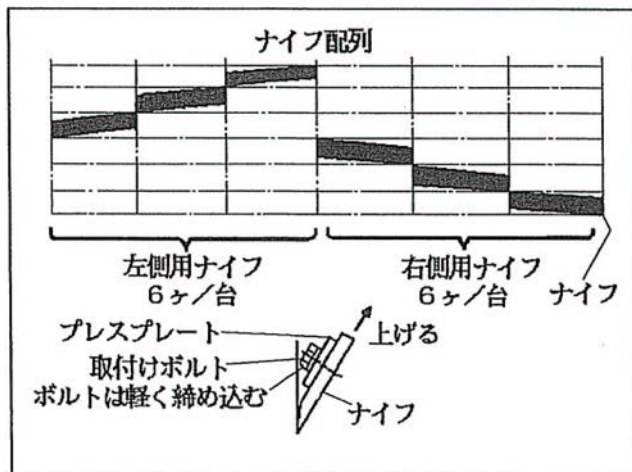
①カッターヘッドを駆動しているギヤ（本機右側）のシェアボルト及び切断長切換えギヤ（本機左側）を外してください。



②新しいナイフを取付け（一番上にして）、ボルトを軽く締め込んでください。

☆ナイフは左右2種類あります。

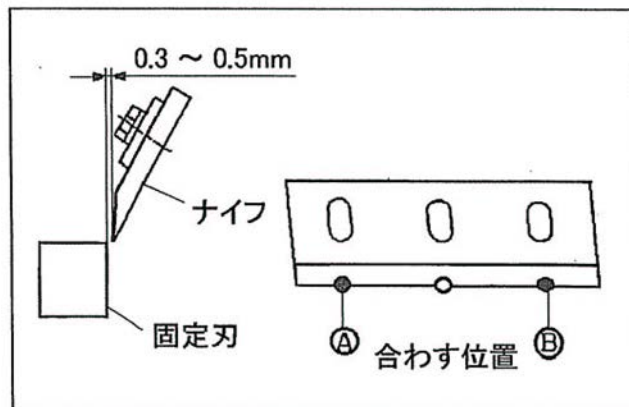
取付け位置を間違えないようにしてください。



③ナイフと固定刃のすき間が 0.3～0.5mm となるよう、カッターヘッドをゆっくり回し付属のシクネスゲージで調整してください。

☆0.3mm のゲージでナイフが通過し、0.5mm のゲージではナイフが通過しないように調整します。

調整位置はナイフの両端（A、B）の2カ所で行ってください。（下図）



④調整後は、取付けボルトを確実に締め付けてください。

（締め付けトルク 100N・m）

☆カッターヘッドを手で回し、ナイフと固定刃の接触がないか確認してください。

接触があれば再調整してください。

⑤ ①で取外した部品を元の位置に組付けしてください。

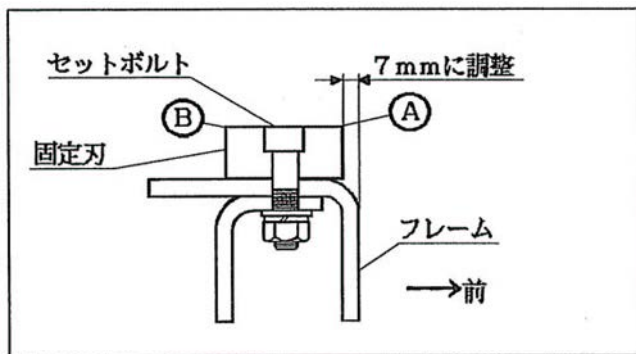
簡単な手入れと処置

2. 固定刃の調整

固定刃は2面が使用できます。1面が摩耗した場合、左右を入換えてお使いください。

◆固定刃が金属などのかみ込みで、摩耗・欠落した場合、左右を入換えることによりエッジの立った角になります。

- ①セットボルト（6カ所）を取外し、固定刃を180度反転して元の位置にセットしてください。
セットボルトは軽く締め込んでください。
- ②フレームと固定刃のすき間を、両端とも7mm（図参照）に調整してください。
- ③最後にセットボルトを確実に締め付けしてください。
（締め付けトルク 80 N・m）



☆上図のA、Bの角が固定刃として使用できます。

- ④固定刃調整後は前項1-③（ナイフのすき間調整）の調整を必ず行ってください。

3. チェン・ベルトの張り調整

注意

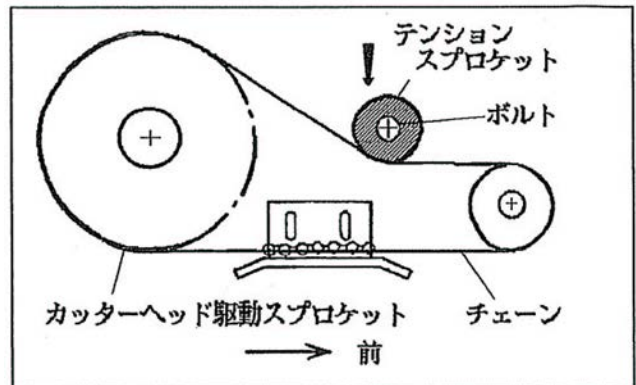
チェンは特に初期伸びをします。初めての使用から10時間後は下記に従って、張り調整を行ってください。

警告

- ①チェンの張り調整や各部の調整をする時はPTOを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は、必ず取付けてください。

◆カッターヘッド駆動用チェンの張り調整（機体右側）

テンションスプロケットを締め付けているボルトを少し緩め、テンションスプロケットを押し下げ、少し遊びがある程度にチェンを張ってボルトを締め付けてください。



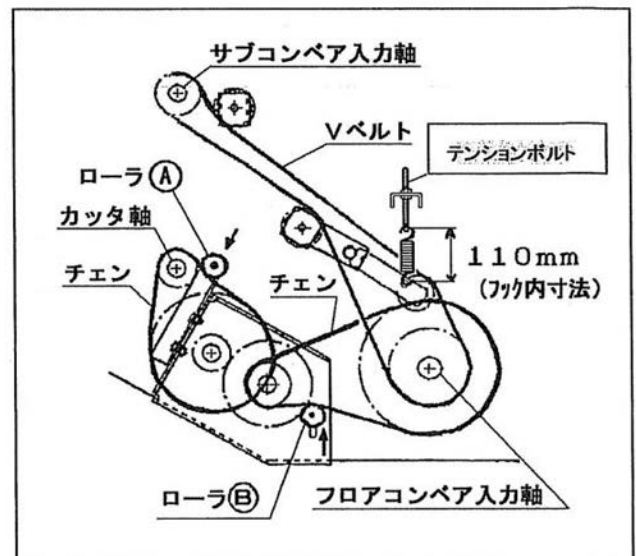
◆フロアコンベア駆動用チェン・サブコンベア駆動用Vベルトの張り調整

①フロアコンベア駆動用チェンの張り調整

テンションローラA、Bを締め付けているボルトを少し緩め、ローラAは上から、ローラBは下から押し、少し遊びがある程度にチェンを張ってボルトを締め付けてください。

②サブコンベア駆動用Vベルトの張り調整

オートテンションになっておりますが、バネの長さが110mm（バネフックの内寸法）になるようテンションボルトのナットを回し、調整してください。

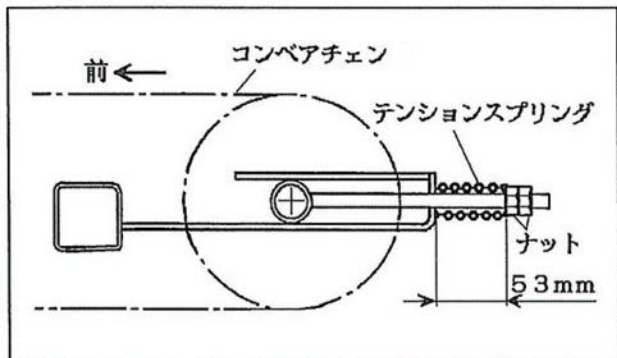


簡単な手入れと処置

◆フロアコンベアの張り調整

チェーンテンションは本機の後方2カ所に装備しております。

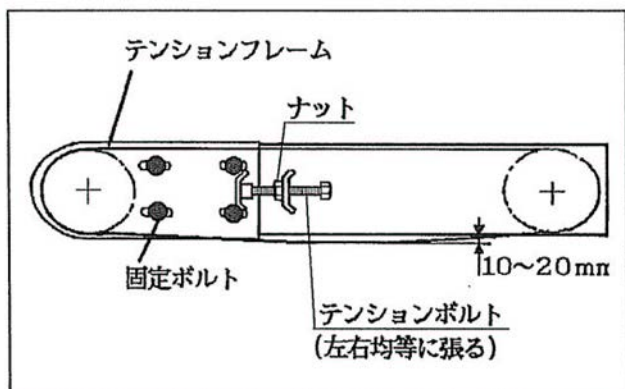
- ①ダブルナットの片方を緩め、テンションスプリングの長さを53mmに調整してください。
- ②緩めたナットを確実に締め付けて、緩み止めをしてください。



◆クロスコンベアベルトの張り調整

テンションボルトで調整します。

- ①テンションフレームを固定している左右8本のボルトを緩めます。
- ②ナットを緩め、テンションボルトを回しベルトのたわみを10~20mmに調整します。(左右均等)
- ③調整後は、必ず緩めたボルト・ナットを締め付けしてください。

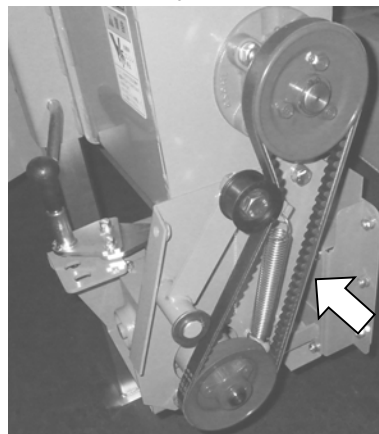


注意

- コンベアベルト調整後は、必ず試運転を行いベルトに片寄りがないか確認してください。
- コンベア内部の草詰まりは、ベルトの耐久性にも悪影響を及ぼしますので、定期的に草を取り除いてください。

◆クロスコンベア駆動用Vベルトの点検

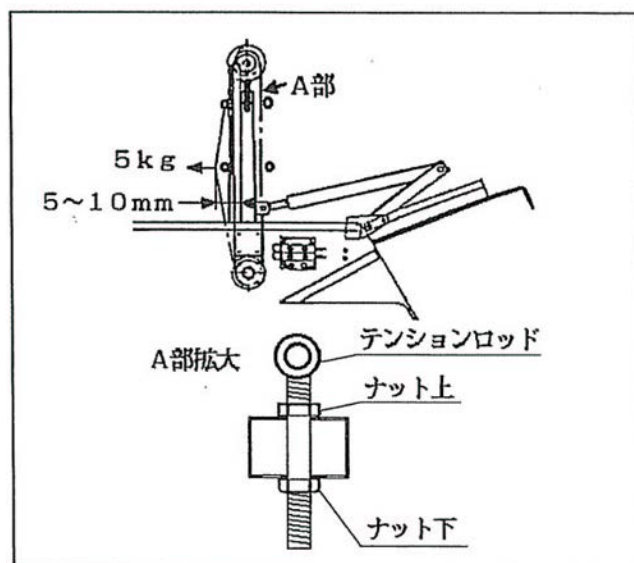
クロスコンベア駆動用Vベルトはオートテンションになっております。オートテンションで張り切れない場合や破損している場合はVベルトを交換してください。(SB-39)



◆サブコンベアチェンの張り調整

テンションロッドで調整します。

- ①テンションロッドを固定している上側のナットを緩めます。
- ②下側のナットを回しながら、チェーン中央部のコンベアバーを約5kgの力で引っ張ったとき、チェーン中央部のたわみが5~10mmとなるように左右均等に調整してください。
- ③調整後は必ず、緩めたナットを締め付けてください。



注意

チェーンが緩んだまま使用すると、ピッチエラーの原因になります。作業前は必ずチェーンの張を確認してください。

簡単な手入れと処置

4. シェアボルトの交換

◆シェアボルト式安全装置を装備

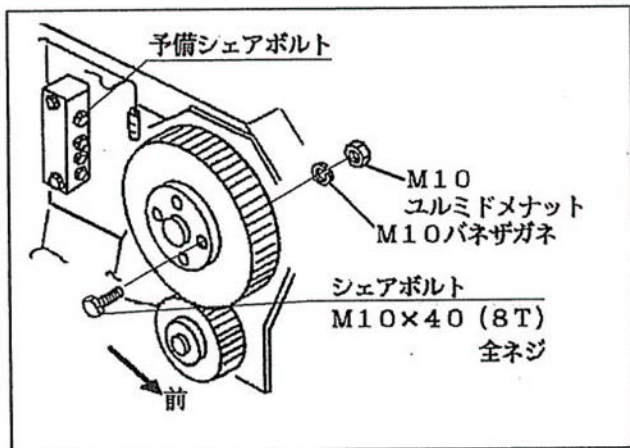
カッター部駆動ギヤとフロアコンベア駆動スプロケットの2カ所は、過負荷がかかったときにボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

◆シェアボルトのサイズは2カ所とも同じです。

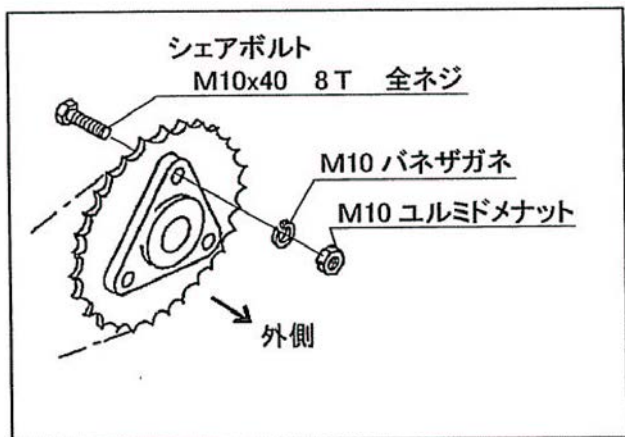
ボルト M10×40 (8T) 全ネジ
バネザガネ M10
ユルミドメナット M10

セットで交換します。

●カッターヘッド駆動用



●フロアコンベア駆動用



注意

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

◆ボルトがせん断されたら交換してください。

せん断されたボルトを除去して、シェアピンフランジを回転させ、ボルト穴に合わせ、シェアボルトとバネザガネ、ユルミドメナットで締め付けしてください。

参考

ナイフ（切断刃）すき間調整のとき、カッターヘッド駆動用のシェアボルトを外しますと、カッターヘッドが手で回転でき調整時間が短縮できます。（P23 参照）

警告

シェアボルトを交換するときは、必ずPTOを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

5. ミッションの点検・給油

◆フロントミッション給油

使用100時間ごとに全量を交換してください。交換するときは、本機を平にしてギヤオイル#90を1.5ℓ入れてください。

◆クロスコンベア用ミッションの給油

このミッションはグリスミッションです。

使用グリス #0

給油量 0.5ℓ

1年ごとに点検し、グリスが不足していれば約0.1ℓ程度補充してください。

注意

ミッションの点検・給油を行う場合は、必ずPTOを切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

簡単な手入れと処置

6. タイヤの交換

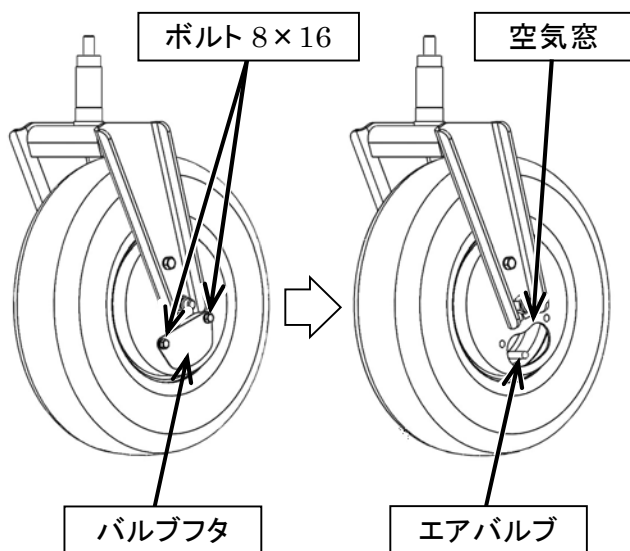
◆装着のタイヤと空気圧

本機に装着のタイヤサイズは5.00-8 8PRです。定期的に空気圧を点検してください。

常用タイヤ内圧 400kPa
(4kgf/cm²)

◆空気圧点検方法

- ①ボルト 8×16 を緩め、バルブフタを外します。
- ②エアバルブを空気窓から見える位置に動かし、空気圧を点検します。



警告

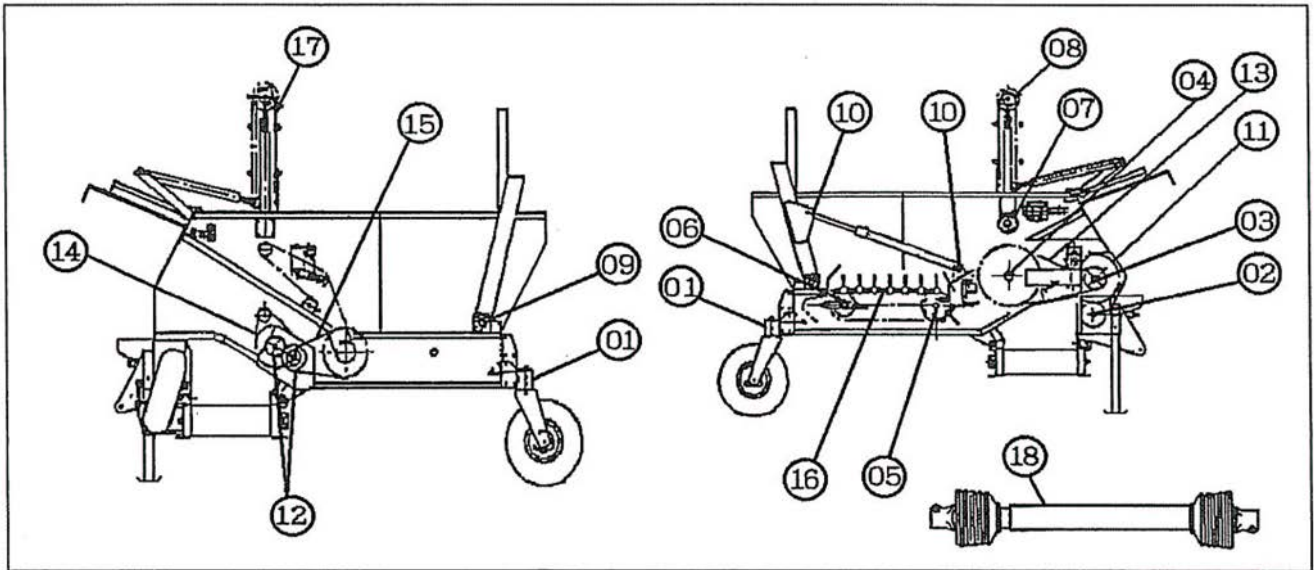
- ①タイヤに関する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車止めをしてから行ってください。
- ②タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な整備を持つタイヤショップなどの専門の所へ依頼してください。

7. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥やほこりなどを落とし、巻き付いた草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部やチェーン類及びナイフには十分注油し、錆びないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料などを塗って、錆びないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは雨やほこりのかからない、屋内の平坦な場所で保管してください。

簡単な手入れと処置

8. 各部への給油



No.	グリスアップ・注油場所	No.	グリスアップ・注油場所
01	キャスタ軸 ベアリング 2ヶ所	09	リヤゲート支点 2ヶ所
02	メインシャフト ベアリング 2ヶ所	10	油圧シリンダ支点 2ヶ所
03	中間シャフト ベアリング 2ヶ所	11	減速ギヤ 2ヶ所
04	カッタ軸 ベアリング 2ヶ所	12	切断長変更ギヤ
05	フロアコンベア駆動軸 ベアリング 2ヶ所	13	カッタ駆動チェン
		14	フロアコンベア駆動チェンA
06	フロアコンベアテンションホイール 2ヶ所	15	フロアコンベア駆動チェンB
		16	フロアコンベアチェン 2本
07	サブコンベア支点軸 2ヶ所	17	サブコンベアチェン 2本
08	サブコンベア テンションプロケット 2ヶ所	18	ジョイントの取扱説明書を参照してください

不調診断

不調内容	診断	処置	参照ページ
●カッターヘッドが回転しない	●ギヤのシェアボルトが切断している	●シェアボルトを交換する M10×40 8T全ネジ	37
●カッターヘッドから異音が出る	●ナイフの摩耗・欠落 すき間がない	●研磨又は交換する すき間調整をする	34
●フロアコンベアが回転しない	●駆動スプロケットのシェアボルトが切断している	●シェアボルトを交換する M10×40 8T全ネジ	37
●ベールが回転しない	●ベール下部にスパイクのスジが入っている ●サブコンベアが作用していない	●ベールの角度を変えて乗せ換える ●サブコンベアを上下して作動させる	32
			31
●クロスコンベアが動かない	●内部に草が詰まっている ●コンベアベルトがフレーム床板との間で凍結している ●ベルトが緩んでいる ●駆動のVベルトが切断している	●分解し、草を除去する ●解凍する ●張り調整をする ●Vベルトを交換する SB-39	36
●クロスコンベアベルトが片寄る	●左右のテンションが均等でない ●内部に草が詰まっている	●コンベアベルトの張り調整をする ●分解し、草を除去する	36
●サブコンベアが回転しない	●ベールを押さえすぎている ●駆動ベルトが緩んでいる ●駆動ベルトが切断している	●サブコンベアを少し上げる ●張り調整をする ●Vベルトを交換する SB-75	27
			35

付表

1. 主要緒元

品名		ロールカッタ	
型式	RC1831	RC1831D	
装着方法	2P半直装 (カテゴリ I・II)	ドローバけん引方式	
駆動方法	PTO駆動 (回転速度 540 min ⁻¹ (rpm))		
適応トラクタ	29.4~58.8 kW (40~80 PS)		
機体寸法	全長	2,810 mm	3,730 mm
	全幅	1,980 mm	
	全高	2,140 mm	
質量	1,350 kg	1,390 kg	
切断幅	1,313 mm		
適応ベール寸法	Φ1,600 mm (以下) × 1,200 mm (以下)		
切断刃	12枚		
固定刃	1枚		
理論切断長	標準: 25.41 mm オプション: 14.75 mm		
タイヤサイズ	5.00-8 8PR		
トラクタ油圧	複動もしくは単動1系統		
切断回数	100回/分 (PTO 540 min ⁻¹ (rpm))		

※このような主要緒元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

品名	部品コード	備考
ナイフR (切断刃)	11583-2231-000	
ナイフL (切断刃)	11583-2233-000	
シェアボルト	01118-5100-400	M10×40 (8T) 全ネジ バラ
ナイロンナット	02311-4001-100	ナイロンナット10バラ
Vベルト	03610-4120-390	SB-39
Vベルト	03610-4120-750	SB-75

3. 給油

給油箇所	使用オイル	給油量
フロントミッション	ギヤオイル #90	1.5ℓ
クロスコンベア用ミッション	グリス #0	0.5ℓ

4. 主なオプション部品

品名	コードNo.	備考
ギヤ 15	11583-2615-000	セット
ギヤ 35	11583-2616-000	セット